

令和元年度
川口市教育委員会事務点検・外部評価報告書
(平成30年度実施事業)

川口市教育委員会

も く じ

■ はじめに

1 趣 旨	—	1
2 目 的	—	1
3 外部評価の対象	—	1
4 外部評価の方法	—	1
5 評 価	—	1
6 外部評価結果	—	2
7 今後の取り組み	—	2
8 令和元年度外部評価委員	—	2

■ 令和元年度評価結果一覧

	—	3
--	---	---

■ 事務点検・外部評価調書

	—	4
--	---	---

基本目標 I

指標(1) “他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向	—	5
指標(2) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	—	7
指標(3) 埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の 小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合	—	9
指標(4) 中学生・高校生海外派遣事業への応募者数	—	11
指標(5) 特別支援学級設置校数	—	13
指標(6) 全国学力学習状況調査の質問紙のうち、 自尊感情、規範意識を示す割合	—	15
指標(7) 人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合	—	17
指標(8) 小児生活習慣病予防検診対象者の割合	—	19
指標(9) 体力テストの全国平均を上回っている 項目数の割合(小学校6年生、中学校3年生)	—	21
指標(10) 高等学校卒業後、大学への進学者の割合	—	23

基本目標Ⅱ

指標(1)	教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合	—	2 5
指標(2)	児童生徒の交通事故発生件数	—————	2 7
指標(3)	いじめの解消率	—————	2 9
指標(4)	不登校児童生徒の割合	—————	3 1
指標(5)	各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間)	—————	3 3

基本目標Ⅲ

指標(1)	生涯学習施設の年間利用者数	—————	3 5
指標(2)	公民館及び専門施設の年間講座参加者数	—————	3 7
指標(3)	図書館年間利用者数(入館者数)	—————	3 9
指標(4)	科学館の年間利用者数	—————	4 1
指標(5)	スポーツ施設の年間利用者数	—————	4 3
指標(6)	人材の登録者数	—————	4 5
指標(7)	アートギャラリーの年間利用率	—————	4 7

基本目標Ⅳ

指標(1)	文化財センター及び分館への年間来館者数	—————	4 9
指標(2)	古文書・写真等資料の収蔵点数	—————	5 1

基本目標Ⅴ

指標(1)	新市立高等学校建設における工事日程の進捗率	—————	5 3
-------	-----------------------	-------	-----

はじめに

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。また、点検及び評価を行うに当たり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、川口市教育委員会が行った事務点検・外部評価（以下「外部評価」という。）の結果をまとめたものです。

2 目 的

川口市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、効果的な教育行政の推進に資すること、並びにその結果を公表し市民への説明責任を果たしていくことを目的としています。

3 外部評価の対象

川口市教育委員会では、本市の教育の振興を総合的かつ計画的に推進していくための指針である「川口市教育大綱」に基づいて、「川口市教育振興基本計画」を策定しました。計画の推進にあたりましては、25の指標を掲げており、この指標を外部評価の対象としました。

4 外部評価の方法

25項目の評価指標に対する内部評価に基づき、外部評価会議において、学識経験者等からの評価を受けました。

5 評 価

「平成30年度の実施状況」、「令和元年度以降の取り組み」及び「指標の達成状況」の内容等を総合的に判断し、次のA～Dの4つの区分としました。

「A」…基本目標の目的実現に向けて30年度の目標は達成されている。

「B」…基本目標の目的実現に向けて30年度の目標は概ね達成されている。

「C」…上記Bと比較して達成状況は低い。

「D」…基本目標の目的実現に向けて30年度の目標はほとんど達成されていない。

6 外部評価結果

外部評価結果では、全25指標の内、「A：達成されている」との評価が8指標、「B：概ね達成されている」との評価が13指標、「C：達成状況は低い」との評価が4指標でありました。

7 今後の取り組み

川口市教育委員会では、今回の結果及び意見等をふまえ、本市教育行政のさらなる発展を目指し、具体的な取り組みを進めていきます。

8 令和元年度外部評価委員

(50音順 敬称略)

氏名	備考
久保 村里正	文教大学 教育学部 教授
小林 博武	川口市退職校長会 幹事
豊嶋 伸次	川口市PTA連合会 副会長

令和元年度 評価結果一覧

基本目標No.	指標No.	指標名	主管課	令和元年度								
				内部評価（職員における評価）				外部評価				
				達成（A）されている	概ね達成（B）されている	達成状況は低い（C）	ほとんど達成されていない（D）	達成（A）されている	概ね達成（B）されている	達成状況は低い（C）	ほとんど達成されていない（D）	
基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり												
Ⅰ	(1)	“他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向	指導課	○					○			
	(2)	将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	指導課		○					○		
	(3)	埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合	指導課			○					○	
	(4)	中学生・高校生海外派遣事業への応募者数	指導課		○					○		
	(5)	特別支援学級設置校数	指導課	○					○			
	(6)	全国学力学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合	指導課		○					○		
	(7)	人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合	指導課			○					○	
	(8)	小児生活習慣病予防検診対象者の割合	学校保健課		○					○		
	(9)	体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合（小学校6年生、中学校3年生）	指導課	○					○			
	(10)	高等学校卒業後、大学への進学者の割合	指導課			○				○		
基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり												
Ⅱ	(1)	教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合	指導課		○					○		
	(2)	児童生徒の交通事故発生件数	指導課			○					○	
	(3)	いじめの解消率	指導課		○					○		
	(4)	不登校児童生徒の割合	指導課			○					○	
	(5)	各学校における「学校応援団平均活動回数」（年間）	指導課		○					○		
基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり												
Ⅲ	(1)	生涯学習施設の年間利用者数	生涯学習課	○					○			
	(2)	公民館及び専門施設の年間講座参加者数	生涯学習課			○				○		
	(3)	図書館年間利用者数（入館者数）	中央図書館		○					○		
	(4)	科学館の年間利用者数	科学館	○					○			
	(5)	スポーツ施設の年間利用者数	スポーツ課		○					○		
	(6)	人材の登録者数	文化推進室		○					○		
	(7)	アートギャラリーの年間利用率	文化推進室		○					○		
基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用												
Ⅳ	(1)	文化財センター及び分館への年間来館者数	文化財課	○					○			
	(2)	古文書・写真等資料の収蔵点数	文化財課	○					○			
基本目標Ⅴ 教育行政経営の基盤強化												
Ⅴ	(1)	新市立高等学校建設における工事日程の進捗率	庶務課	○					○			
計				8	11	6	0	8	13	4	0	

事務点検・外部評価調書

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(1) “他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>「幼児期の教育との円滑な接続に関するアンケート」における、“他者との関係”（県推進“子育ての目安「3つのめばえ」”）に関する4項目についての割合。</p> <p>幼児期は生涯にわたる人格の基礎を形成する大切な時期であり、教育活動の充実を図る必要があることから、この指標を設定した。</p>	<p>小学校1年生児童の“他者との関係”における現状について、各項目の達成が8割に満たない状況である。幼児期において、人との関わり方を身につけさせることは重要であることから、この目標値を設定した。</p>	<p>小学校1年生 「身につけている、ほぼ身につけている」</p> <p>物を大切に →75%</p> <p>コミュニケーションをとる →78.8%</p> <p>返事やあいさつをする →71.2%</p> <p>がまんをする →51.9%</p>	<p>小学校1年生 「身につけている、ほぼ身につけている」</p> <p>物を大切に →80%</p> <p>コミュニケーションをとる →80%</p> <p>返事やあいさつをする →80%</p> <p>がまんをする →80%</p>	28

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30.4.1～H31.3.31																						
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校に「子育ての目安『3つのめばえ』」家庭むけリーフレットを配布し、内容の理解及び活用の重要性について周知を図った。 アンケート調査結果を学校訪問、要請訪問、市教職員研修等において、小学校1年生児童の傾向を示し、本市の実態として周知した。また、道徳科、特別活動、ライフスキルかわぐちなど、豊かな心の育成について、教員の指導力向上を図った。 																						
③実施結果	<p>昨年度6月末から7月初めに県からの依頼で実施した、市内全小学校1年生対象の「幼児期の教育との円滑な接続に関するアンケート調査」によると、「物を大切に」「コミュニケーションをとる」「がまんをする」について、目標値に届かなかった。その後各学校では、児童の実態に合わせた具体的な取組を実施し、年度末のアンケート調査結果では、目標値を達成することができた。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>アンケート調査の結果</th> <th>1学期</th> <th></th> <th>年度末</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物を大切に</td> <td>65.4%</td> <td>→</td> <td>84.6%</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションをとる</td> <td>69.2%</td> <td>→</td> <td>90.1%</td> </tr> <tr> <td>返事やあいさつをする</td> <td>84.6%</td> <td>→</td> <td>88.5%</td> </tr> <tr> <td>がまんをする</td> <td>50.0%</td> <td>→</td> <td>82.7%</td> </tr> </tbody> </table>			アンケート調査の結果	1学期		年度末	物を大切に	65.4%	→	84.6%	コミュニケーションをとる	69.2%	→	90.1%	返事やあいさつをする	84.6%	→	88.5%	がまんをする	50.0%	→	82.7%
アンケート調査の結果	1学期		年度末																				
物を大切に	65.4%	→	84.6%																				
コミュニケーションをとる	69.2%	→	90.1%																				
返事やあいさつをする	84.6%	→	88.5%																				
がまんをする	50.0%	→	82.7%																				

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31.4.1～R2.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> 今後も1学期、年度末と2回アンケート調査を行うことで、児童の1年間の成長をみとることができるようにする。 アンケート調査結果を児童の実態としてしっかりと受け止め、具体的な方策を検討し、全教育課程を通して豊かな心の育成を図るよう指導にあたる。 学校だけでなく家庭での取組を促進するため、保護者会やホームページ、学校だより等を活用し、積極的に家庭教育の必要性を啓発し、保護者や地域の理解と協力を得られるよう連携を図りながら目標値の達成を目指していく。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	物を大切にする →76% コミュニケーションをとる →79% 返事やあいさつをする →76% がまんをする →60%	物を大切にする →77% コミュニケーションをとる →79.5% 返事やあいさつをする →77% がまんをする →65%	物を大切にする →78% コミュニケーションをとる →79.5% 返事やあいさつをする →78% がまんをする →70%	物を大切にする →79% コミュニケーションをとる →80% 返事やあいさつをする →79% がまんをする →75%	物を大切にする →80% コミュニケーションをとる →80% 返事やあいさつをする →80% がまんをする →80%
	物を大切にする →76.9% コミュニケーションをとる →75% 返事やあいさつをする →76.9% がまんをする →61.5%	物を大切にする →71.2% コミュニケーションをとる →61.5% 返事やあいさつをする →82.7% がまんをする →63.5%	物を大切にする →84.6% コミュニケーションをとる →90.1% 返事やあいさつをする →88.5% がまんをする →82.7%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	6月に行った調査は、「物を大切にする」65.4%、「コミュニケーションをとる」69.2%、「返事やあいさつをする」84.6%、「がまんをする」50.0%となっており、それぞれの項目について目標値に達していないものがあつた。 しかし、年度末に行った同様の調査では、「物を大切にする」84.6%、「コミュニケーションをとる」90.1%、「返事やあいさつをする」88.5%、「がまんをする」82.7%となっており、目標値を大きく上回ったことから、評価はAとした。
	前回評価 B	結果から、「物を大切にする」「コミュニケーションをとる」については目標値を若干下回ったものの、「返事やあいさつをする」については目標値を大幅に上回っている。また、「がまんをする」についても現状値を上回り、かつ目標値に近づきつつあることから、評価はBとした。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	平成30年度より1学期と年度末の年2回調査を行っており、年度末の調査では、すべての項目において、実績値が目標値を大きく上回っていることから、評価はAとする。 年度末に調査を行うようにしたことで、児童の1年間の成長を見ることができ、学校生活の中での教員の指導の成果を感じられ、高く評価できる。 今後も引き続き、学校が中心となって、家庭と連携しながら、児童の成長を育ててほしい。
	前回評価 B	「返事やあいさつをする」については、目標値を上回っている。他の指標については目標値を下回っているが、「がまんをする」という指標については、前年度の実績値は上回っていることなどから、評価はBとする。 また、「コミュニケーションをとる」という項目については、特に重要と考えるので、学校生活の中で教員から積極的に働きかけてほしい。 さらに、現状では入学時のみに行っているアンケートを学年末に再度行うことで、児童生徒の1年間の成長を見られるようにするとよい。

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(2) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「将来の夢や目標を持っている」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>一人ひとりを確実に伸ばす教育を推進することが、将来の夢や目標を描ける児童生徒が増えることにつながることから、この指標を設定した。</p>	<p>一人ひとりを確実に伸ばす教育を推進することにより、全国トップレベルの水準になることをめざして、この目標値を設定した。</p>	<p>小学校6年生 88.0%</p> <p>中学校3年生 70.6%</p>	<p>小学校6年生 90%</p> <p>中学校3年生 80%</p>	30

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、特別活動、総合的な学習の時間、ライフスキルかわぐちの実施など、進路・キャリア教育について教員へ指導の充実を図るよう指導・助言をした。 ・徳力向上推進委員、ライフスキル教育推進委員の指導資料を活用して、児童生徒に適切な指導を行えるように、周知した。 ・川口の元気夢わーく体験事業では、市内全中学校(26校)において、1年生または2年生が、市内の事業所・施設等で、3日間の社会体験活動(職場体験活動、福祉体験活動)を行った。
③実施結果	<p>指標としている全国学力・学習状況調査の結果(平成30年4月実施の調査結果)において、質問事項「将来の夢や目標を持っていますか」では、小学校85.8%、中学校72.7%であった。</p>

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R2. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や総合的な学習の時間、ライフスキル教育の指導について、学校訪問、要請訪問、教職員研修において実践例を交えた具体的な指導・助言を行う。小学校においては、児童一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を育てる視点、中学校においては、生徒が自ら生き方を考え、主体的に進路選択できるような視点を与えるための指導方法について指導助言を行っていく。 ・児童生徒の主体性を育むために、教師から一方的に課題を提示し、その後の学習活動に展開につなげていくのではなく、児童生徒に疑問を生じさせ、課題を導き出す発問や資料提示の工夫について指導助言を行っている。さらに、授業の振り返りの場面でも机間指導し、ねらいに沿ったまとめを記述している児童生徒をピックアップするなど、指導と評価を行うよう進めている。 ・徳力向上推進委員会で先進的な研究を一層進め、市内に広めていく機会を拡充していく。その際、将来の夢に関わる指導をどの教科・領域等で行うか年間計画に位置づける等の視点も入れていく。 ・働くことの意義や好ましい職業観を育成するため、川口の元気夢わーく体験事業において、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育や職場体験を、今後も継続して実施する。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校6年生 88.0% 中学校3年生 72.0%	小学校6年生 88.5% 中学校3年生 74.0%	小学校6年生 89.0% 中学校3年生 76.0%	小学校6年生 89.5% 中学校3年生 78.0%	小学校6年生 90% 中学校3年生 80%
	小学校6年生 86.2% 中学校3年生 73.9%	小学校6年生 85.5% 中学校3年生 72.6%	小学校6年生 85.8% 中学校3年生 72.7%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	全国学力・学習状況調査（平成30年4月実施の調査結果）より、将来の夢や目標を持っているかを問う質問事項において、小学校では、目標値89.0%に対して実績値85.8%と下回り、中学校においては目標値76.0%に対して実績値72.7%と若干下回った。しかしながら、小学校・中学校ともに平成29年度に比べ実績値が若干であるが向上していることから、評価はBとした。
	前回評価 C	全国学力・学習状況調査（平成29年4月実施の調査結果）より、将来の夢や目標を持っているかを問う質問事項において、小学校では、目標値88.5%に対して実績値85.5%と下回り、中学校においては目標値74.0%に対して実績値72.6%と若干下回った。また、小学校・中学校ともに平成28年度に比べ実績値が減少したことから、評価はCとした。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	小・中学生ともに実績値は目標値に達していないが、平成29年度に比べ上昇し、目標値との差はわずかとなっていることから、評価はBとする。 今後は、児童生徒が将来の夢や目標を持てるよう、現在実践している“主体的に考え、学べるような仕組みづくり”を、学校訪問や研修など、教員への指導・助言を通して市内各学校に浸透させていくことに努めてほしい。
	前回評価 B	小学生・中学生ともに実績値は目標値を若干下回っているが、大きな乖離はなく、目標は概ね達成できていることから、評価はBとする。 川口の元気夢わーく体験事業は、児童生徒が夢や目標を持つきっかけとなり得るので、今後も積極的に行ってほしい。また、夢や目標に対するキャリアデザインの形成についても重要であるので、必要なサポートができる体制を整えてほしい。

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(3) 埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の
小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合(国語、算数)。 経年変化を見ることで、本市の学力を測るため、この指標を設定した。</p>	<p>本市の平成27年度の小学校4年生が、埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合は、国語では、66.7%、算数では、58.3%である。 学力向上へ向けた取り組みを推進することで、毎年この割合を伸ばしていくことをめざして、目標値を設定した。</p>	<p>小学校4年生 (平成27年度) 国語66.7% 算数58.3%</p>	<p>毎年前年度を上回る。</p>	<p>32</p>

平成30年度の実施状況

- ①実施時期 H30. 4. 1～H31. 3. 31
- ②実施内容
- 各学校において学力向上に関する児童生徒の実態把握に基づいて、学力向上のPDCAサイクルの確立に向け取り組んだ。(市立学校長会議での周知及び指導、学校訪問での指導)
 - 各教員研修での周知と指導(中堅教諭研修会における学力向上研修の実施)
 - 学力向上推進事業として漢字チャレンジ検定の実施
 - 放課後や長期休業中を活用した補充学習の実施
- ③実施結果
- 平成30年4月に実施した埼玉県学力・学習状況調査において、平成30年度の中学校1年生の調査結果で埼玉県平均正答率を上回った項目は、国語では30項目中13項目あり、43.3%が上回った。算数では、32項目中4項目あり、12.5%が上回った。

令和元年度以降の取り組み

- ①実施時期 H31. 4. 1～R2. 3. 31
- ②見直し等が必要な事項、また見直した事項
- 各学校における学力向上検証サイクルの確立と確実な実施
 - 学校訪問時の指導の徹底
 - 学力調査に向けた学習のまとめの確実な実施(県及び市作成の補充プリントの活用)
 - 学力向上にむけた研修の充実
 - 市内研究委嘱校の取組の周知

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	前年度の数値 国語66.7% 算数58.3% を上回る 【学力の伸び】 県平均以上	前年度の数値 国語76.6% 算数40.6% を上回る 【学力の伸び】 県平均以上	前年度の数値を上 回る 【学力の伸び】 県平均以上	前年度の数値を上 回る 【学力の伸び】 県平均以上	毎年前年度を 上回る
※ 指標の追加について 調査の性質から、当初 の指標にはない【学力の 伸び】を指標に追加した もの。 新たな目標値： 【学力の伸び】が県平均 を上回ることを目標値と する。 ()内は新たな目標値	国語76.6% 算数40.6% 【学力の伸び】 国語 4 算数 3	国語60.0% 算数31.3% 【学力の伸び】 国語 2 算数 1	国語43.3% 数学12.5% 【学力の伸び】 国語 1 数学 1		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	<p>指標としている埼玉県学力・学習状況調査において、平成30年度の中学校1年生生徒の調査結果で、国語・数学ともに設問ごと（項目数）に県平均正答率を上回るという目標値を大きく下回った。前年度からの伸びも両教科ともに県の伸びを下回る結果であった。</p> <p>平均正答率を比較すると、国語で0.1ポイント、数学で1.7ポイント下回るもののほぼ県同等の学力と捉えられる。</p> <p>指標が大きく下回っている背景には、小学校から中学校に対象校種が変更し、本市の受験事情や外国人生徒の増加等があるものと考えられる。</p> <p>しかし、指標が前年度同様大きく下回っていることから、評価はCとする。</p>
	前回評価 C	<p>指標としている埼玉県学力・学習状況調査において、平成29年度の6年生児童の調査結果で、国語・算数ともに目標値を大きく下回った。しかし、各教科の平均正答率を比較すると、国語は0.4ポイント上回り、算数は1.0ポイント下回る結果で、大きな学力差はなかった。</p> <p>また、経年変化で捉える「学力の伸び」についても、平成28年度からの伸びが国語は県以上、算数は県同等の伸びを示している。総合的に判断して、学力の伸び並びに学力レベルは県平均同等である。</p> <p>しかしながら、指標が目標値を大きく下回ったため、評価はCとした。</p>

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	<p>「国語・算数の正答率」及び「学力の伸び」ともに前年度の実績値を大きく下回り、目標を達成できていないことから、評価はCとする。</p> <p>各学校において、学力向上に関する児童生徒の実態把握をし、学力向上のPDCAサイクルの確立に取り組み、小学校において正答率が県平均より上回っている点は、評価できる。</p> <p>今後は、その取り組みが結果として表れることを期待したい。</p>
	前回評価 C	<p>「国語・算数の正答率」及び「学力の伸び」ともに前年の実績値を下回り、目標を達成できていないことから、評価はCとする。</p> <p>特に算数については、県平均と比べ低い数値であるので、学びの中でつまづかないように、学習の支援体制を築いていってほしい。また、国語については、漢字チャレンジ検定などの実施により、県平均を上回っている点は評価できる。学力は、一朝一夕には改善しないので引き続き、向上に向けた取り組みを進めてほしい。</p> <p>なお、今後は、平成30年度の取り組みである「学力向上検証改善サイクル」の確立に期待する。</p>

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(4) 中学生・高校生海外派遣事業への応募者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
中学生・高校生を海外に派遣したり、外国の生徒の受入れを行ったりすることにより豊かな国際感覚と日本人としての自覚と責任を身に付け、グローバル社会に貢献できる人材を育成することが大切であることから、この指標を設定した。	グローバル社会で活躍するには、まず世界に目を向けることが原点であることから、中学生・高校生海外派遣事業への応募者を現状から10パーセントの増加をめざして、この目標値を設定した。	中学生 77人 高校生 42人	中学生 85人 高校生 46人	34

平成30年度の実施状況

①実施時期 H30.4月～H30.8月

②実施内容

応募受付を4月2日～13日に実施した。その後、一次試験を4月22日、2次試験（中学生）を5月13日、（高校生）5月6日に実施した。中学校、高校とも選考委員会を経て派遣生を決定し、6月から事前研修会を中高とも6回実施した。（3回目以降はALTを派遣し、語学研修を中心に実施）高校生の保護者説明会を6月26日に、中学生の保護者説明会を翌27日に行った。市長表敬訪問及び出発式を7月12日に帰国報告会を8月24日に行った。中学生の派遣期間は、7月25日から8月3日までの10日間、高校生は7月21日から8月8日までの19日間である。派遣生は、報告書を作成し、11月に市内の各学校へ配布した。

③実施結果

中学生78人（市立62名、私立・国立16名）、高校生59人（市立12名、私立・県立・国立47名）の応募があった。1次選考は、教育研究所にて作文審査を、2次選考も同じ会場にて面接試験（個人・集団）を実施した。最終的に、中学校18名をオーストラリアへ、高校15名をカナダへ派遣した。

令和元年度以降の取り組み

①実施時期 H31.4月～R1.8月

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

募集要項やポスターの配布は平成30年度と同様早めて行う。中学生の派遣は2年生が対象となることから、1年生の3学期には各担任を通じて、周知徹底を行っていく。また、前年度の取組みが分かるように、報告書を各学校へ一律3部配布しているが、中規模・大規模校にはクラスの数に応じて配布数を増やし、保護者や生徒に対して本事業の周知を行っていく。高校生に関しては、特に川口市立高等学校への周知を促進し、応募数を増やしていくように努める。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	中学生 79人 高校生 43人	中学生 81人 高校生 44人	中学生 82人 高校生 45人	中学生 83人 高校生 45人	中学生 85人 高校生 46人
	中学生 72人 高校生 66人	中学生 99人 高校生 58人	中学生 78人 高校生 59人		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	中学生に関しては前年より21名減少した。高校生は前年度とほぼ同数の応募があった。学校への募集要項、ポスターの配布等の準備は前年度と同じ時期に行った。また、支所や公民館等への周知も同じように行ったが、中学生の応募数は減少した。各中学校への配布ポスター数を増やしたり、前年度中（対象生徒が1年次）に各クラスでの周知を徹底するなど、応募数を全体的に増やせるよう努めていきたい。
	前回評価 A	中学生に関しては前年を大きく上回る99名の応募があった。高校生は前年度より応募数が減ったものの、目標値を上回る応募があったことから、評価はAとした。学校への募集要項、ポスターの配布を早めたことや、支所、公民館等に周知徹底を図ったことなどが応募の増加につながったと考えられる。ホームページで募集要項を閲覧したり、応募用紙をダウンロードする生徒が多くなってきているので、次年度以降ホームページの内容をさらに充実していきたい。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	海外派遣事業への応募者数の実績値は、中学生は目標値を若干下回ったが、高校生は目標値を上回っており、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。 応募者数を増やすには、学校や市の施設へポスター掲示をする他に、学校経由で対象学年の生徒全員にチラシを配付するなど、多くの人の目に留まるような周知方法について検討してほしい。
	前回評価 A	中学生・高校生ともに、目標値を上回る応募者数となったことから、評価はAとする。 募集にあたり、応募者の増加を図るため、早めの周知や応募要項の配布場所を増やすなど、改善に努めたことは非常に評価できる。

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(5) 特別支援学級設置校数				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>国や県のインクルーシブ教育システム構築の政策のひとつに、「多様な学びの場」の充実が挙げられている。特別な支援を必要とする児童生徒が地元の小・中学校で学ぶ環境をつくるためにも、特別支援学級の設置促進は重要であることからこの指標を選定した。</p>	<p>川口市は拠点校方式により、特別な支援を必要とする児童生徒が、課題克服に向けて少人数で効果的に学ぶことをめざしている。</p> <p>インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育を推進するためにも設置率50%をめざして、今後も適正規模、適正配置をめざし計画的に設置を進めていく。</p>	<p>小学校15校 中学校11校</p>	<p>小学校26校 中学校13校</p> <p>〔 小学校22校 中学校13校 〕</p>	36

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	<p>市内全体において、対象となる児童生徒数の推移を適切に把握しながら、学務課、教育総務課等、関係他課との連携を図り、特別支援学級の配置を計画的に行った。該当の小・中学校長から聞き取りや、適宜学校訪問を行い、特別支援学級の設置に向けた施設・設備面や教育経営面についての配慮事項について指導を行い、円滑な設置に努めた。</p>
③実施結果	<p>小学校2校（芝小学校、原町小学校）に特別支援学級を設置することができた。</p> <p>特別支援学級の設置校は、小学校（19校）、中学校（12校）となり、設置率は、小学校37%、中学校は46%となった。</p>

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R3. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、当面2校ずつの特別支援学級の設置を進め、目標値の達成に努める。 ・ その後については、50%で設置完了ではなく、今後も通学距離や児童生徒数の推移を見極めながら設置を検討していく。 ・ 教育経営面、特に、人材育成に関しては県主催の研修をはじめ、市の主催の教職員研修を充実させ、人材育成に努めている。児童生徒一人一人の個に応じた支援については、6名の特別支援教育アドバイザーによる巡回教育相談を実施し、学校や保護者のニーズに応じた支援が行えるよう事業を進めている。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校17校 中学校12校	小学校19校 中学校12校	小学校20校 中学校13校	小学校23校 中学校13校	小学校26校 中学校13校
※ 目標値の再設定について 設置率50%を目指す 目標年度の変更(当初の 平成32年度から平成35 年度に変更)に伴い目標 値を再設定するもの。 ()内は新たな目標値			(小学校19校 中学校12校)	(小学校21校 中学校12校)	(小学校22校 中学校13校)
	小学校16校 中学校11校	小学校17校 中学校12校	小学校19校 中学校12校		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	新たに小学校2校に特別支援学級を設置し、再設定した目標値を達成することができた。今後も引き続き、設置への取り組みを進めていく。 昨年度に、設置率50% (小学校26校、中学校13校) の目標年度を令和5年度とした。中学校においては、令和2年度に目標値の達成を目指す。
	前回評価 B	新たに小学校1校、中学校1校に特別支援学級を設置したものの、目標を達成することができなかった。 今後も引き続き、設置への取り組みを進めていく。 なお、今後の目標値については、整備計画の変更に伴い、設置率50% (小学校26校、中学校13校) を目指す目標年度を当初の平成32年度から平成35年度としたことから併せて目標値も修正したいと考える。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	特別支援学級設置校数の実績値は、小学校が2校増加し、目標値に達している。特別支援学級の設置率50%に達するという目標に向け、計画通り整備が進んでいることから、評価はAとする。 特別支援学級の整備を進めていく中では、設置するのみではなく、教員研修の充実や教員の配置などの課題にも十分配慮しながら、適切な整備に努めてほしい。
	前回評価 B	特別支援学級設置校数は、目標値には達していないが、小・中学校それぞれ1校増えており、着実に整備を進めていることから、評価はBとする。 特別支援学級の設置にあたっては、教員の配置や教室の確保など考慮すべき事項が多いが、今後も、取り組みを進めてほしい。 また、指標の目標値については、主管課の提案通り、計画の変更に伴い次年度以降は目標値を再設定することが適切と考える。

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(6) 全国学力学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>全国学力学習状況調査で実施している質問紙の中の「自分には、よいところがあると思いますか」「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>自尊感情、規範意識を高めることが、豊かな心を育むことにつながることから、この指標を設定した。</p>	<p>2項目ともに、市内平均は、県平均、全国平均に及ばない現状である。</p> <p>全国平均より高い数値となっている県平均を基準とし、県平均を上回る目標値とした。</p>	<p>「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 74% 中学校 64%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」 小学校 90.2% 中学校 91.5%</p>	<p>「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 80% 中学校 70%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」 小学校 95% 中学校 95%</p>	38

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、道徳教育、特別活動、ライフスキルかわぐち、読書活動など、豊かな心の育成についての教員の指導力向上を図った。 ・より各学校の道徳教育を充実し豊かな心の育成を図るため、道徳に係る研修の対象者、内容、回数の改善を図り実施した。既存の道徳教育推進教師を対象とした道徳教育推進研修会(2回)の他に、若手教員を対象とし授業力の向上を図るための道徳授業研修会(2回)を実施した。 ・「川口市道徳の日(10月9日)」の前後に各小・中学校で道徳の授業公開などを行うとともに、市役所に各校の取り組みを掲示し広く市民に発信し、道徳教育の充実を図った。
③実施結果	<p>指標としている全国学力・学習状況調査の結果(平成30年4月実施の調査結果)において、質問事項「自分にはよいところがあると思いますか」(自尊感情)では小学校78.3%、中学校72.0%、質問事項「学校のきまり(規則)を守っていますか」(規範意識)では小学校91.4%、中学校94.9%であった。</p>

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R2. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上を目指して、冊子「川口の道徳～明確な指導観に基づいた授業の創造～」を学級担任数分布した。また、「川口の道徳」「指導の方向」で道徳の授業で大事にしたいポイントを示しながら、学校訪問等で指導助言を行っている。 ・中堅教諭等資質向上研修において、研修教員全員が道徳を研修する機会を設け実施することとなっている。 ・令和元年度に実施した課題研究員による研究成果を発信し、市内小・中学校の道徳、特別活動の指導の充実を図る。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 75% 中学校 66%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 76% 中学校 67%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 77% 中学校 68%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78% 中学校 69%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 80% 中学校 70%
	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 92% 中学校 92%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 93% 中学校 93%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 94% 中学校 94%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 95% 中学校 95%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 95% 中学校 95%
	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 72.4% 中学校 66.1%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 76.5% 中学校 70.5%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78.3% 中学校 72.0%		
	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 93.0% 中学校 95.4%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 92.3% 中学校 94.8%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 91.4% 中学校 94.9%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	全国学力学習状況調査（平成30年4月実施の調査結果）より、自尊感情を問う質問事項において、小学校では、目標値77%に対して実績値78.3%(前年度比+1.8%)と上回った。中学校では、目標値68%に対して実績値72.0%(前年度比+1.5%)と上回った。規範意識を問う質問事項において、小学校では、目標値94%に対して実績値91.4%(前年度比-0.9%)と若干下回ったが、中学校では、目標値94%に対して実績値94.9%(前年度比+0.1%)と若干上回る値となった。以上のことから、自尊感情、規範意識とも概ね目標を達成したと言える。
	前回評価 B	全国学力学習状況調査（平成29年4月実施の調査結果）より、自尊感情を問う質問事項において、小学校では、目標値76%に対して実績値76.5%(前年度比+4.1%)と上回った。中学校では、目標値67%に対して実績値70.5%(前年度比+4.4%)と大きく上回った。また、規範意識を問う質問事項において、小学校では、目標値93%に対して実績値92.3%(前年度比-0.7%)と若干下回ったが、中学校では、目標値93%に対して実績値94.8%(前年度比-0.6%)と上回る値となった。以上のことから、自尊感情、規範意識とも概ね目標を達成したと言える。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	自尊感情の項目の実績値は、小・中学校ともに平成29年度より上昇し、目標値を上回っている。規範意識の項目の実績値は、小学校では目標値を下回っているが、中学校では上回っている。このことから、目標は概ね達成しており、評価はBとする。 規範意識を高めるためには、上手な“しかり方”など、指導力の向上を図ることが重要であり、教員は、児童生徒に規範意識が身につけられるような指導を学校生活の中で常に意識しながら取り組んでほしい。
	前回評価 B	自尊感情の項目において、小学校・中学校ともに、平成28年度に比べ実績値が上がり、目標値を上回っている点は、非常に高く評価できる。しかしながら、規範意識の項目において、小学校の実績値は目標値を下回っていることから、評価はBとする。 自尊感情や規範意識を高めることは、豊かな心を育むうえで重要となるので、引き続き、児童生徒が学校生活の中で学んでいけるような指導を期待する。

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(7) 人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>市内小・中学校で人権感覚育成プログラムを使用した校内研修を実施した学校の割合。</p> <p>人権課題を解決するための基盤となる人権感覚を育成するため、指導内容・指導方法の改善を図る必要があることから、この指標を設定した。</p>	<p>人権感覚育成プログラムを実践した学校の割合は市内小・中学校ともに100%であるが、人権課題を解決するための基盤となる人権感覚を育成するためには、人権感覚育成プログラムの実施校数100%の維持とともに、実践の質の向上が必要である。このことから、市内すべての小・中学校における人権感覚育成プログラムを使用した校内研修の実施を目標とした。</p>	<p>小学校71% 中学校61%</p>	<p>小学校100% 中学校100%</p>	42

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	<p>市内全教職員に配布の人権教育資料「人間であること」に、人権感覚育成プログラムの実践事例を掲載し、紹介するとともに、「人権教育主任研修会」「人権教育理解研修会」「人権教育管理職研修会」において研修内容として扱った。特に「人権教育理解研修会」では、具体的なプログラムを紹介し、実際に体験するプログラムを取り入れ、参加者が体験的に学べるようにした。</p>
③実施結果	<p>市立小・中学校では「人権感覚育成プログラム」の年間計画への位置づけは100%となっており、授業の中で活用されている。しかし、校内研修で活用した学校は小学校で88%（52校中46校）、中学校で77%（26校中20校）と昨年度より低下した。</p>

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R2. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>「人権感覚育成プログラム」が校内研修で100%活用されるよう、「人権教育主任研修会」や「人権教育理解教育研修会」「人権教育管理職研修会」などの機会でも必ず伝達を行うとともに、校長会でもその趣旨を繰り返し伝達していく。また、「人権感覚育成プログラム」を校内研修で活用したか、中間評価を行い、活用していない学校については、「人権感覚育成プログラム」を研修の中で必ず活用するよう指導する。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校80% 中学校70%	小学校90% 中学校80%	小学校100% 中学校 90%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%
	小学校96% 中学校77%	小学校100% 中学校100%	小学校88% 中学校77%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	人権感覚育成プログラムの活用については、各学校で年間指導計画に位置づけられ活用されている。また、人権教育主任研修会等の各研修会でも取り上げていたが、指標である校内研修での使用に対する周知が徹底できなかったため、昨年度より数値が低下してしまった。数値が29年度より低下してしまったことから評価結果をCとした。
	前回評価	人権感覚育成プログラムを実践した学校の割合が、小学校・中学校とも、当初の目標を超え、100%を達成できたため。
A		

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	小・中学校ともに、実績値は平成29年度より下がっており、目標値に達していないことから、評価はCとする。 人権感覚育成プログラムを校内研修で活用することにより、教員の指導内容や指導方法の共通理解を図れることから、必ず活用するということを管理職を通して各学校に周知徹底してほしい。
	前回評価	小学校・中学校ともに、100%という高い実績値となっており、目標を達成していることから、評価はAとする。 今後は、人権感覚育成プログラムを継続的に実践していくとともに、人権教育に関する教員の指導力の向上にも力を入れてほしい。
A		

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(8) 小児生活習慣病予防検診対象者の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>定期健康診断の結果、肥満度30%以上の児童生徒を、小児生活習慣病予防検診の対象者としている。</p> <p>糖尿病や高血圧など、生活習慣病の低年齢化が進むその要因である肥満の解消は大きな課題である。</p> <p>生涯を健康に過ごすことができるよう、望ましい生活習慣を身に付け、検診対象の割合を低減していくことが重要である。</p>	平成26年度実績の3割減とした。	5.09%	3.50%	44

平成30年度の実施状況

①実施時期 H30.4.1～H31.3.31

②実施内容

定期健康診断における身体測定の結果から、肥満傾向にある児童生徒に対し、生活習慣の改善をなど指導を行う。

また、肥満度30%以上の小学校4年生児童及び中学校1年生生徒のうち希望者を対象に、血液検査・血圧測定・医師の相談等を行う「小児生活習慣病予防検診」を実施し、その結果に応じ、医師の管理や保健指導等の対応を図る。

③実施結果

・小学校4年生（肥満度30%以上／児童数）	207人／5,000人	4.14%
・中学校1年生（肥満度30%以上／生徒数）	225人／4,454人	5.05%
小4・中1計（肥満度30%以上／児童生徒数）	432人／9,454人	4.57%

※過去検診対象者の経年推移（肥満度30%以上の割合（ ）内は前年度比較増減）

H28対象	小4	3.86%	→	4.27%	(0.41)	→	4.78%	(0.51)
	中1	5.01%	→	3.58%	(-1.43%)	→	3.49%	(-0.09)
	全体	4.40%	→	3.92%	(-0.48%)	→	4.14%	(0.22)
H29対象	小4	4.50%	→	4.21%	(-0.29%)			
	中1	4.50%	→	3.81%	(-0.69%)			
	全体	4.50%	→	4.01%	(-0.49%)			

令和元年度以降の取り組み

①実施時期 H31.4.1～R2.3.31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

平成30年度の小児生活習慣病予防検診実施にあたり、受付時間を授業等に影響の小さい時間帯へ見直したことから、対象児童生徒の受診率の向上が図られた。

短期的な改善はみられるものの、いわゆるリバウンドのような傾向がみられることから、継続的な生活習慣の改善に、学校と保護者がさらに連携し取り組むことが重要である。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	4.50%以下	4.25%以下	4.00%以下	3.75%以下	3.50%以下
	4.40%	4.50%	4.57%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>本指標の対象学年における肥満度30%以上の児童生徒の割合は、目標値4.00%以下を達成できず、昨年度の数値を上回る結果となった。</p> <p>対象児童生徒に対し実施した小児生活習慣病予防検診では、小4児童133人、中1生徒76人が受診し、受診率はそれぞれ、64.25%、33.77%と前年度の58.64%、21.95%から向上した。これは、検診の受付時間を、授業に影響が小さい時間帯へ見直したことによる効果と考えられる。</p> <p>過去検診対象者の経年推移から、対象となった翌年度は改善がみられるものの、時間の経過とともに従前の状態に戻る傾向が伺える。</p>
	前回評価 C	<p>小児生活習慣病予防検診の対象学年児童生徒のうち、肥満度30%以上となる児童生徒の割合について、目標値である4.25%以下を達成できず、また、昨年度の数値をわずかながら上回ってしまっている。</p> <p>対象児童生徒に対し実施した小児生活習慣病予防検診では、小4児童129人、中1生徒45人が受診し、受診率はそれぞれ58.64%、21.95%となり、全体として受診率の向上が図られた。受診者については、その結果に基づき、医療機関での治療や学校での生活習慣改善指導など、将来的な生活習慣病予防につながる対応を図ることができた。</p> <p>また、前年度検診対象者の経年推移から、全体として肥満度30%以上の児童生徒の割合の減少がみられた。</p>

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>目標は未達成であるが、小児生活習慣病予防検診の受診の時間帯を授業に影響が小さい時間帯へ見直すなど、前年度に指摘のあった点についても改善し、受診しやすい環境づくりに努めており、検診の受診率が上がっていることから、評価はBとする。</p> <p>今後は、肥満傾向にある児童生徒を減らせるよう、児童生徒や保護者の生活習慣改善への意識づけにも重点を置きながら、学校保健委員会等と連携し、学校と家庭が協力して取り組める体制を構築してほしい。</p>
	前回評価 B	<p>目標は未達成であるが、小児生活習慣病予防検診の受診率は全体的に上がっており、また、前年度検診対象者の経年推移から、全体として肥満度30%以上の児童生徒の割合が減少していることから、評価はBとする。</p> <p>今後は、受診の時間帯や場所について工夫し、受診しやすい環境づくりを検討してほしい。</p>

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(9) 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合 (小学校6年生、中学校3年生)				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
各学校が実施している体力テストにおいて、全国平均を上回る項目数の割合。 客観的な基準により、各学校及び児童生徒一人ひとりに応じた課題解決への取り組みや体力向上の状況を示す数値であることから、この指標を選定した。	体力テスト男女合計16種目のうち、小学校6年生で8種目以上、中学校3年生で11種目以上の平均値が、全国平均を上回ることをめざして、この目標値を設定した。	小学校6年生 44% 中学校3年生 63%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	46

平成30年度の実施状況								
①実施時期	H30.4.1～H31.3.31							
②実施内容	測定項目 男女それぞれ8種目 ①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横跳び ⑤20mシャトルラン ⑥50m走 ⑦立ち幅跳び ⑧ボール投げ ※中学生は⑤「20mシャトルラン」については、「20mシャトルラン」か「持久走(男子1500m女子1000m)」のどちらかを選択(川口市の中学校は全校で持久走を選択している)。							
③実施結果	※全国平均値と川口市平均値との比較 市平均に○印がついている種目は、全国平均を上回った種目 →小学校10/16種目、中学校13/16種目全国平均を上回った。							
	握力	上体起 こし	長座体 前屈	反復横 跳び	20mシャ トルラン	50m走	立ち幅 跳び	ボール 投げ
小6								
【男子】市	19.75	23.30○	37.64○	47.98○	61.83	8"85	168.81○	24.20
全	20.02	22.05	35.43	46.98	64.48	8"79	165.19	26.81
【女子】市	19.86○	21.93○	43.22○	45.17○	50.13	9"09○	162.29○	15.30
全	19.58	20.44	39.96	44.35	50.94	9"12	156.68	16.33
中3					持久走			
【男子】市	34.60	33.72○	54.18○	57.76○	6'05	7"52	215.87○	24.71○
全	34.90	30.44	47.73	55.92	6'05	7"44	212.56	23.82
【女子】市	26.40○	29.54○	54.15○	50.49○	4'34○	8"52○	179.53○	15.27○
全	25.59	25.03	48.15	48.56	4'41	8"58	173.83	14.43

令和元年度以降の取り組み	
①実施時期	H31.4.1～R2.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	各学校が継続的・計画的に体力向上に取り組むことができるよう、体力向上に向けた実践例や新体力テストの測定に向けた取り組み例の紹介、本市体力向上推進委員会による体力向上に向けた研究を行っていく。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%
	小学校6年生 50% 中学校3年生 75%	小学校6年生 56% 中学校3年生 75%	小学校6年生 63% 中学校3年生 81%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>小学校では、男子は、上体起こし・長座体前屈・反復横とび・立ち幅跳びにおいて、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・50m走・立ち幅跳びにおいて、全国平均値を上回ることができた。実績値としては、16種目中10種目が全国平均値を上回り、63%を達成することができた。</p> <p>中学校では、男子は、上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳び・ボール投げにおいて、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・持久走・50m走・立ち幅跳び・ボール投げとすべての種目で、全国平均値を上回ることができた。16種目中13種目が全国平均値を上回り、実績値は、81%を達成することができた。</p>
	前回評価 A	<p>小学校では、男子は、上体起こし・長座体前屈・立ち幅跳びにおいて、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・20mシャトルラン・50m走・立ち幅跳びにおいて、全国平均値を上回ることができた。実績値としては、16種目中9種目が全国平均値を上回り、56%を達成することができた。</p> <p>中学校では、男子は、上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・持久走・立ち幅跳び・ボール投げにおいて、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・持久走・50m走において、全国平均値を上回ることができた。16種目中12種目が全国平均値を上回り、実績値は、昨年度から引き続き75%を達成することができた。</p>

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>小・中学校ともに、実績値は、平成29年度より上がっており、目標値を大きく上回っていることから、評価はAとする。</p> <p>実績値が年々上昇している状況は、教員の指導を始め、学校全体の体力向上に向けた取り組みの成果の表われであると捉え、高く評価できる。</p> <p>今後はさらに、体力テストの結果が高い学校の取り組みを他の学校に広く周知し、市内の児童生徒の体力向上につなげていくことを期待したい。</p>
	前回評価 A	<p>小学校・中学校ともに、実績値が目標値を大きく上回っており、市全体的に児童生徒の体力が向上していることから、評価はAとする。</p> <p>実績値の上昇は、学校生活の中での教員の指導が結果を結んだものであるの、高く評価できる。今後も、目標の達成に向け努力することで、指標の項目のみでなく、全体の体力の向上につなげていってほしい。</p>

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(10) 高等学校卒業後、大学への進学者の割合				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>新市立高等学校の卒業生のうち、大学へ進学した生徒の割合。 新校は、大学への進学を強く推し進めていくことからこの指標を設定した。</p>	<p>現市立高等学校への入学者の進路希望先や保護者の願いが、大学進学であることから設定した。</p>	<p>川口総合高 42.4% 川口高 63.0% 県陽高 55.9% (H28.3)</p>	<p>新市立高等学校 80%以上</p>	<p>48</p>

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30.4.1~H31.3.31								
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 外国人講師を常駐させ、英語でのコミュニケーション能力の向上を図った。 放課後自習室に大学生チューターを配置した。 教員・生徒のICT活用能力の向上を図るため、ICT支援員を配置した。 連携大学等の講師を招き、先進的な教育を受講させた。 								
③実施結果	<p>平成31年3月 大学進学割合 (大学進学者数/卒業生数)</p> <table border="0"> <tr> <td>旧川口総合高校</td> <td>45.8% (77人/168人)</td> </tr> <tr> <td>旧川口高校</td> <td>69.8% (171人/245人)</td> </tr> <tr> <td>旧県陽高校</td> <td>51.6% (83人/161人)</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>57.7% (331人/574人)</td> </tr> </table>	旧川口総合高校	45.8% (77人/168人)	旧川口高校	69.8% (171人/245人)	旧県陽高校	51.6% (83人/161人)	総計	57.7% (331人/574人)
旧川口総合高校	45.8% (77人/168人)								
旧川口高校	69.8% (171人/245人)								
旧県陽高校	51.6% (83人/161人)								
総計	57.7% (331人/574人)								

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31.4.1~R2.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>お茶の水女子大学との連携事業について教材の利用なども含めた包括的な連携を実現するため、これまで報償金として予算化していた業務を委託契約により実施する。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	前年度以上を目指す	前年度以上を目指す	(新校開校) 前年度以上を目指す	前年度以上を目指す	新市立高等学校 80%以上
	川口総合高 43.2% 川口高 71.5% 県陽高 53.2%	川口総合高 35.4% 川口高 74.0% 県陽高 49.7%	旧川口総合高 45.8% 旧川口高 69.8% 旧県陽高 51.6%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	平成30年度の川口市立高等学校の開校に伴い、新校に入学した生徒を想定した指導を展開したことにより、旧市立3校に入学した生徒についても大学進学実績が若干高まった。
	前回評価 C	平成29年度は、希望者に対して個別型チューターによる学習支援などを導入したが、1・2年生中心であったことから、大学進学実績に大きく影響することがなかった。 平成30年度生徒募集では、例年よりも高い入試倍率となり、川口市立高等学校への期待感が高く、大学進学志向も現状より高くなることが想定されることから、平成32年度目標値の達成に向けて学力向上支援の取り組みを進めていく。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	大学への進学者の割合の実績値は、旧川口高校のみ平成29年度より下がっているが、旧川口総合高校・旧県陽高校は上がっている。また、3校の総計の実績値も、平成29年度より上がっており、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。 今後も引き続き、特色ある教育を通して、川口市立高校全体の進学率の向上に努めるとともに、川口市の小・中学校における学力向上を担うリーディング校としての役割を期待する。
	前回評価 B	進学率においては、前年度より下がった学校もあるが、その中で川口高校は前年度を上回る結果となっており、相対的には目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。 平成30年4月に開校した川口市立高等学校は、新しい高校ということで学生や保護者などの期待も大きい。今後も、先進的な取り組みを軸に、特色ある教育による学力向上支援を推進してほしい。

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(1) 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
採用2～3年次の若手教員数において教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合。経験豊富な教職員の大量退職期に伴う若手教員の増加により、一層の資質向上が必要であることから、この指標を設定した。	初任者研修修了者に対して、継続して研修の機会を確保し、各教科等における指導法や学級経営等の資質向上が必要である。このことから2年次～3年次の間に教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」対象者全員の受講をめざしてこの目標値を設定した。	0%	100% <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">※平成30年度初任者のうち、受講修了者の割合</div>	54

平成30年度の実施状況

①実施時期 6月27日、8月9日(台風のため中止)、10月31日、11月1日、11月13日、12月18日、2月6日

②実施内容

- 第1回 6月27日 教育研究所
グループごとの研究のテーマ、方向性についての協議
- 第2回 8月9日 教育研究所 研究協議 (台風のため中止)
グループごとにKJ法の手法を活用しながら研究テーマの達成に向けた手立ての決定
- 第3回 会場校研修 (3会場)
①10月31日 青木中央小 (中川教諭・体育)
②11月1日 慈林小 (堀教諭・道徳)
③11月13日 前川東小 (服部教諭・特活)
- 第4回 12月18日 教育研究所 グループ協議
(1)研究テーマにもとづいた個人の実践発表
(2)研究のまとめに向けて準備
(3)プレゼン内容の検討
- 第5回 2月6日 並木公民館
(1)グループごとのプレゼン発表
(2)学校共有フォルダを活用しながら、各グループプレゼン資料を作成

③実施結果

アンケートの結果「十分理解できた」が51人中21人(41%)「概ね理解できた」が25人(49%)「あまり満足できなかった」が5人(10%)という結果だった。
受講者の感想でも、「他の学校の教員と情報交換やテーマについて研究することができた」「他の教科の取り組み方がわかって良かった」「今後の教育活動に生かせることが見つかった」など、充実した研修となった。

令和元年度以降の取り組み

①実施時期 H30と同時期

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

- ・研修生が教科を選択することによって、主体的に研修に取り組み、他の教員と協力して指導法について追求することができた。
- ・小・中合同のグループにより“小中連携”という視点でも研究を深めることができた。
- ・最後の発表会では、他グループの実践を聞き、今後の教育活動に取り入れてみようとしている研修生がいた。
- ・指導法について、日頃の悩みを交流するなど、研修生同士のつながりを深めることができた。
- ・教科によっては、人数にばらつきがあったため、どの教科も人数を含め、充実した研修になるよう研修内容を見直す。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	60%	70%	80%	90%	100%
	54% (57名/106名)	66% (66名/100名)	68% (68名/100名)		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>平成27年度初任者研修対象者100名の内、パワーアップ研修対象者（経験2年目～4年目）となる28年度は57名、29年度は9名、30年度は2名が参加した。よってこの3年間で68%の参加率となる。</p> <p>目標値80%には達していないが、研修の対象者の中には、産休、育休等を取り研修に参加できない教員もいるため、若干下回る数値となっている。また、アンケート結果からも「十分満足できた」「概ね満足できた」を合わせると90%という満足度になっていることから、評価結果はBとした。</p>
	前回評価 B	<p>平成27年度初任者研修対象者100名の内、パワーアップ研修対象者（経験2年目～4年目）となる平成28年度は57名、平成29年度は9名が参加した。よってこの2年間で66%の参加率となる。目標値70%には達していないが、近い数値となっている。また、アンケート結果からも「十分満足できた」「満足できた」を合わせると100%という満足度になっていることから、この評価結果とした。</p>

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>受講修了者の割合の実績値は平成29年度より上がっているが、目標値に達していないことから、評価はBとする。</p> <p>研修の対象者の中には、産休、育休等を取り研修に参加できない教員もいるため、100%の達成は難しいと思われるが、研修の受講は、教員の指導力向上につながるため、教員が研修に参加しやすい環境づくりを学校全体に推進してほしい。</p>
	前回評価 B	<p>実績値は目標値に達していないが、平成28年度と比べ目標値に近づいていることから、評価はBとする。</p> <p>教員の指導力の向上は重要であると考えてるので、教員が積極的に研修に参加するように、教育指導パワーアップ研修の意義を伝え周知するとともに、引き続き、研修に参加しやすい環境づくりを進めてほしい。</p>

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(2) 児童生徒の交通事故発生件数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
児童生徒の交通事故発生件数。 子どもたちの安心・安全の確保する教育を推進することが、危険予測・危険回避などの安全意識を身に付けられることから、この指標を設定した。	交通安全意識の徹底と啓発に取り組むことにより、交通事故0をめざして、この目標値を設定した。	小学校38件 中学校18件 高等学校2件	小・中・高等学校 0件	58

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	学校における発達段階に応じた安全教育、安全指導の一層の充実を図るとともに、効果のあった実践について紹介するなど教職員研修を充実し、児童生徒の交通事故発生件数ゼロを目指す。県の条例改正に伴い、通学時における自転車保険の加入の調査及び保険加入の義務化を周知していくよう促していく。
③実施結果	平成30年度1学期末の児童生徒の交通事故発生件数は、小学校34件、中学校14件、高等学校2件で、前年度より8件増加した。

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R2. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	県の条例改正に伴い、通学時における自転車保険の加入の調査及び保険加入の義務化を周知していくと共に学校における発達段階に応じた安全教育、安全指導の一層の充実を図るとともに、効果のあった実践について紹介するなど教職員研修を充実し、児童生徒の交通事故発生件数ゼロを目指す。また、学校の学級活動(朝・帰)において交通安全指導を徹底していく。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校 38件以下 中学校 18件以下 高等学校 2件以下	小学校 28件以下 中学校 13件以下 高等学校 2件以下	小学校 18件以下 中学校 8件以下 高等学校 1件以下	小学校 8件以下 中学校 4件以下 高等学校 1件以下	小・中・高等学校 0件
	小学校 31件 中学校 10件 高等学校 3件	小学校 30件 中学校 9件 高等学校 3件	小学校 34件 中学校 14件 高等学校 2件		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	平成30年度の児童生徒の交通事故発生件数は、目標値に対して小学校は16件、中学校は6件、高等学校は1件多い状況で、目標を達成することができなかったことから、評価はCとした。
	前回評価 B	平成29年度の児童生徒の交通事故発生件数は、目標値に対して小学校は2件増加、中学校は4件減少、高等学校は1件増加で、小学校・高等学校で目標に達成することができなかったが、総数から見ると、減少傾向になっているため。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	交通事故発生件数の実績値は、全体的に増加傾向にあり、小・中学校及び高校のすべてで目標値に達していないことから、評価はCとする。 特に、小学校の事故発生件数が多く、目標との乖離が大きくなっていることから、交通ルールを守ることの大切さについて学校での安全教育や、地域ぐるみでの見守りや安全指導によりいっそう力を入れて取り組むことを期待したい。 また、現在は自転車保険の加入が義務付けられているので、加入率100%を目指し、学校側から積極的に保険の加入を推進してほしい。
	前回評価 B	交通事故発生件数の実績値は、目標に対して、小学校及び高等学校では未達成であったが、中学校では、平成28年度よりも減少し、総数としても減少していることから、目標は概ね達成しているため、評価はBとする。 交通安全教育が行き渡っていることにより、事故発生件数が減少傾向にあると思うので、今後も引き続き取り組み、改善して欲しい。また、平成30年4月より自転車保険の加入が義務付けられたことを受け、学校でも広く周知するよう努めてほしい。

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(3) いじめの解消率

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
市内小・中学校におけるいじめの認知件数のうち、認知年度内に解消された件数の割合。いじめが児童生徒にとって重大な事案であり、早期発見・早期対応をし、いじめの解消に努める必要があることから、この指標を選定した。	一人ひとりの児童生徒にとって、明るく安心して学べる学校であるためには、認知したいじめを全て解消することが不可欠であるため、この目標値を設定した。	小学校 100% 中学校 99.2%	小学校 100% 中学校 100%	60

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	月例の市いじめ調査により、各小中学校におけるいじめの認知件数を毎月集約し、実態把握に努めるとともに、必要に応じて、学校への聞き取りや生徒指導担当指導主事が学校を訪問し、いじめ解消に向けた指導・助言を適時に行い、いじめ解消に向けて各学校を支援した。
③実施結果	平成29年度より、いじめ防止対策推進法に基づき、機微な事象であってもいじめの疑いのあるものはいじめの認知を早期に行うよう各学校に指導したため増加している。解消率は小学校では目標値である100%には到達しなかったが、各学校におけるいじめに対する指導の意識は高まっているといえる。「川口の元気 いじめゼロサミット」では、弁護士でもあり、本市いじめから子どもを守る委員会委員長の角南和子氏によるいじめ予防授業を実施した。

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R2. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	市いじめ調査の内容の見直しを行った。いじめの実態や、認知・解消が、それぞれの事案で正確に把握できるようにした。 また、「川口の教育」などを通して、いじめの未然防止や早期発見、適切な対処などいじめに係る対応の基本的事項を周知した。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%
※ いじめ解消に対する国の方針が変更となったことに伴い、いじめが止んでいる状態が3か月継続していることが要件となったことから、平成29年度以降の実績値は翌年度6月末時点の数値とする。	小学校 100% 中学校 99.5%	小学校 99.8% 中学校 99.3%	小学校 99.2% 中学校 100%		
		※平成30年6月末実績値	※令和元年6月末実績値		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>平成30年度の市内各学校のいじめ認知件数は、小学校が1,208件、中学校が375件と小学校・中学校ともに平成29年度に比べて大幅に増加している。いじめの定義に当てはめ、きめ細かく認知されていることが伺える。</p> <p>また、いじめの解消率は、令和元年6月末において小学校が99.2%、中学校が100%であった。小学校での解消率の低下は、安易に「解消した」と判断せずに、経過をよく見極めている状況があると考ええる。このことから、目標は概ね達成できたと捉え、評価はBとした。</p>
前回評価	<p>平成29年度の市内各学校のいじめ認知件数は、小学校が897件、中学校が269件であった。小・中学校において認知件数が28年度に対して増加した。これは各学校が積極的にいじめを認知したためである。</p> <p>また、いじめは、平成30年6月末において小学校では99.8%、中学校では99.3%が解消した。このことから、目標は概ね達成できたと捉え、評価はBとした。</p> <p>※平成29年度にいじめ解消に対する国の方針が変更になった。</p> <p>いじめが止んでいる状態が3か月継続していることが要件であることから、今後は実績値を6月末時点で捉える必要がある。</p>	
B		

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>いじめの解消率の実績値は、小学校では目標値を下回っているが、中学校では目標値に達しており、目標は概ね達成していることから、評価はBとする。</p> <p>いじめの解消の定義については、期間を定めることは難しく、国の方針の期間を経過しても、引き続き児童生徒の状況について注意深く見守っていくことが大切である。</p> <p>どのような事象であっても、いじめの疑いのある案件については早期に認知するよう各学校に指導したことで認知件数が増加しているが、今後は、いじめが発生した際の学校の対応等について、案件が重大化する前に、学校と教育委員会が連携して取り組んでいく体制を構築してほしい。</p> <p>また、子どもに一番近い教員が、「いじめを許さない、子どもを絶対守り抜く」というメッセージを保護者・地域に発信してほしい。</p>
前回評価	<p>いじめの解消率は、小学校・中学校ともに目標値に達していないが、解消に努め、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。</p> <p>いじめの認知を早期に行うために、各学校の教員への指導や学校訪問など、学校や教員のみで問題を抱えないように、教育委員会が学校と連携して、いじめの解消に取り組んでいる姿勢は高く評価する。</p> <p>また、教員が介入したことでいじめが悪化するという状況が起こらないように、学校現場の教員個人の指導力の向上も、今後必要となってくると考える。</p>	
B		

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(4) 不登校児童生徒の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
市内小・中学校の児童生徒のうち、一年度内に30日以上欠席した児童生徒（病気や経済的理由による者を除く）の割合。人数による比較よりも、割合で指標を示す方がより効果を検証できることから、この指標を選定した。	不登校の着実な解消を図るために、特に増加率が著しい中学1年生における不登校の割合を減少させることをめざして、この目標値を設定した。	中学1年生 平成25年度 2.69% 平成26年度 2.01%	中学1年生 平成32年度 1.50%	60

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30年6月～H31年3月
②実施内容	市内小・中学校において、不登校による欠席日数が30日以上ある児童生徒数（病気・経済的な理由・その他による欠席は除く）並びに不登校傾向にある児童生徒数を、9月から毎月末締めで月例調査を実施した。
③実施結果	平成30年度末における不登校による欠席日数が30日以上ある中学校1年生の生徒数（病気・経済的な理由・その他による欠席は除く）は、144人で中学1年生の全生徒数4,438人に対して3.24%であった。

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	R1年6月～R2年3月
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事が学校訪問により指導助言を行っていく。また、学校・市教委双方が不登校児童生徒の状況を共有し、不登校解消に向けた効果的な手立てについて、早い段階で対応することによって、不登校児童生徒の解消に努める。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	中学1年生 平成28年度 2.00%以下	中学1年生 平成29年度 1.88%以下	中学1年生 平成30年度 1.75%以下	中学1年生 平成31年度 1.63%以下	中学1年生 平成32年度 1.50%以下
	中学1年生 平成28年度 2.13%	中学1年生 平成29年度 3.07%	中学1年生 平成30年度 3.24%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	不登校児童生徒の割合が昨年度より増加傾向となった。不登校が小学校からの「継続」なのか、中学校からの「新規」なのか、生徒一人一人の不登校の要因を分析し、学校や関係機関と連携しながら対応していく。また、生活習慣の確立、基礎基本の定着や特別活動や地域における社会体験等を通して意図的に生徒の「居場所づくり」や「絆づくり」ができるよう、生徒指導担当学校訪問や各学校の取組を充実させていく。
	前回評価 C	不登校児童生徒の割合が昨年度より増加傾向となった。児童生徒の特性を、学校生活上の要因、保護者や家庭環境に関する情報について情報を集め、生徒指導担当指導主事による学校訪問や各学校における不登校児童生徒に対する取組を充実させていく。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	C	不登校児童生徒の割合は、年々増加しており、目標を達成できていないことから、評価はCとする。 不登校となるには様々な要因が考えられるので、個々の状況についてしっかりと実態を把握し、要因を分析することが重要であり、それぞれの状況に合わせた支援を講じることで、改善につなげていけるよう努めてほしい。
	前回評価 C	不登校児童生徒の割合は、平成28年度より増加し、3%という高い実績値になっており、目標は達成できていないことから、評価はCとする。 中1ギャップのような勉強の上での課題や、学校内でのコミュニティになじめないという人間関係の悩みが、不登校の原因となっている場合もあるため、児童生徒一人一人の課題を見極め、必要とする支援ができるような体制づくりを進めてほしい。

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(5) 各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間)

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
市内小・中学校の各学校の学校応援団の1校当たり年間の平均活動回数(安心安全見守り活動を除く)。さらなる活動内容の充実が、学校・家庭・地域の教育力の向上につながることから、この指標を設定した。	登下校の見守り活動については、多くの活動回数があり定着しているが、学習支援や地域活動と連携した活動などその他の活動を充実させていく必要がある。年間の授業時数などを考慮し、年間20程度増やすことをめざして、この目標値を設定した。	小学校 103.7回 中学校 34.1回	小学校 120回 中学校 50回	64

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30.4.1~H31.3.31
②実施内容	学校応援団リーフレットの配布や学校応援団コーディネーター研修会の開催等を通じて、学校における学習活動、安全確保、環境整備などのボランティアとして保護者や地域住民の参加を促し、各学校で組織されている学校応援団活動の充実を図った。また、新規の事業である「スクールガード・リーダー研修会」を行った。
③実施結果	学校応援団活動(学習活動、環境整備、部活動・クラブ活動、環境教育、体験活動、生徒指導、学校ファームへの支援)の1校あたりの平均活動回数は、小学校が101.9回、中学校が33.4回であった。

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31.4.1~R2.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	各地区での活動を周知するため、リーフレットとともに、ホームページでも活動内容を公開した。学校応援団コーディネーター研修会では、川口市で増加している外国籍の家庭に対しての手立てを協議内容とし、市内で周知を行った。また、学校応援団の保険制度を周知し、活動の内容を充実できるよう働きかけ、令和元年度の目標値を目指す。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校 120回 中学校 35回	小学校 120回 中学校 35回	小学校 120回 中学校 40回	小学校 120回 中学校 45回	小学校 120回 中学校 50回
	小学校 126.9回 中学校 29.3回	小学校 107.5回 中学校 28.7回	小学校 101.9回 中学校 33.4回		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	小・中学校ともに目標値を下回る結果であったが、中学校の数値は昨年度に比べ上昇が見られた。学校応援団推進委員会の運営、学校応援団コーディネーター研修会及びスクールガード・リーダー研修会の取り組み、学校応援団リーフレット・ガイドブックを作成と配布、ホームページの公開など、目標達成のための手立てをとり進めているため、B評価とする。
	前回評価 B	小・中学校とも目標値をやや下回る結果であったが、学校応援団推進委員会の運営、学校応援団コーディネーター研修会の取り組み、学校応援団リーフレット・ガイドブックの作成、町会長・民生委員への配布や周知など、目標達成のための手立てをとり進めているため、B評価とする。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	学校応援団の平均活動回数の実績値は、小・中学校ともに目標値を下回っているが、中学校では平成29年度より増えていることから、目標は概ね達成されており、評価はBとする。 学校応援団の活動は、学校と地域が連携していく上で非常に重要な活動であるが、学校が活用しきれていない面がある。より多くの市民に知ってもらい、地域や保護者が安心して積極的に活動できるよう、リーフレットの内容や配布方法について検討してほしい。
	前回評価 B	小学校・中学校ともに、平成28年度より実績値が下がり、目標値を下回っているが、学校と地域の連携が図られていることから、目標は概ね達成されており、評価はBとする。 学校応援団活動は、学校と地域が協力体制を築く上で非常に重要な活動になるので、今後も引き続き、推進して欲しい。

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(1) 生涯学習施設の年間利用者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
市内公民館及び専門施設の年間利用者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。	年間利用者数を毎年1.12%増加をめざし目標値を設定した。	1,933,416人 ※ システム改修後の 現状値 (平成27年度) 2,376,472人	2,067,034人	70

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30.4.1~H31.3.31
②実施内容	生涯にわたり多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として、市内公民館及び専門施設の部屋を提供することで、地域社会における文化の向上や福祉・健康の増進を推進した。 また、魅力ある多種多様な講座・教室を実施することにより、学習機会を提供した。
③実施結果	年間利用者は前年度と比較すると103,122人増加しており、再設定した目標値を上回ったことから、地域社会における文化の向上や福祉・健康の増進を推進できたと考えている。 平成29年度利用者数…2,418,118人 平成30年度利用者数…2,521,240人

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31.4.1~R2.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	幅広い年齢層の市民に学習活動のできる拠点を提供することはもとより、施設の耐震工事やトイレの洋式化等を推進し、さらなる利用者へのサービス向上に努める。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度					
※ 目標値の再設定について平成27年度に実施したシステム改修に伴い利用者集計方法が変更となったため、平成27年度の利用者数を基準値として、目標値を再設定したもの。 新たな目標値： 平成27年度の実績値を基準値とし、毎年1.12%増加した数値を目標値とする。 ()内は新たな目標値	1,976,967人 (2,403,088人)	1,999,109人 (2,430,003人)	2,021,499人 (2,457,219人)	2,044,140人 (2,484,740人)	2,067,034人 (2,512,569人)
	2,459,298人	2,418,118人	2,521,240人		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	利用者数が目標値に達しており、4.26%増加していることから、多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として公民館等を提供することとともに、魅力ある講座・教室を実施することにより学習機会を提供することができたと考えている。このことから評価結果はAとするもの。
	前回評価 B	施設の大規模工事に伴う休館があったことにより、利用者数が目標値に達していないが、休館中の3館（芝南公民館・新郷南公民館・青少年会館）を除くと0.34%利用者が増加しており、多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として公民館等を提供するとともに、魅力ある講座・教室を実施することにより学習機会を提供することができたと考えている。しかしながら、目標値には達していないことから評価結果はBとする。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	年間利用者数の実績値は、平成29年度に比べ大幅に増加しており、目標値を上回っていることから、評価はAとする。 今後も引き続き、市民が生涯学習活動の拠点として公民館を利用できるよう推進するとともに、より多くの市民に公民館の活動について興味を持ってもらうため、広報紙・ホームページ等での周知の方法を工夫してほしい。
	前回評価 A	年間利用者数は、平成28年度より減少しており実績値は目標値に達していないが、施設改修により休館となった施設が複数あったことが要因であり、実質的な利用者数は増加していることから、評価はAとする。 公民館は、市民の学習活動に密接に関わる場所なので、市民にとって身近で利用しやすい環境づくりを引き続き推進してほしい。

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(2) 公民館及び専門施設の年間講座参加者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
市内公民館及び専門施設主催の年間講座参加者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。	年間講座参加者数を、毎年0.175%増加をめざし目標値を設定した。	256,756人	259,000人	70

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30.4.1～H31.3.31
②実施内容	自己実現をめざす市民の多様な学習・活動意欲の高まりに対応するため、地域の特性や市民の要望を踏まえ、公民館及び専門施設において、川口市民大学公開講座「さかなクンのお魚講座～海と環境の未来を考える～」など、魅力ある多種多様な講座・教室を実施することにより、一般教養はもとより専門性の高い分野や現代的課題の学習機会を提供した。
③実施結果	公民館及び専門施設において主催した講座・教室および文化祭や他部署との共催事業等の延べ参加者数、事業数（講座数等）。 平成29年度講座参加者数…262,345人 事業数（講座数等）…860事業 平成30年度講座参加者数…253,763人 事業数（講座数等）…818事業

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31.4.1～R2.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	公民館及び専門施設において、地域での課題や幅広い年齢層の学習ニーズを把握することで、さらに魅力ある多種多様な講座・教室を企画・実施し、主催講座の延べ参加者数の増加に取り組む。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	257,197人	257,647人	258,097人	258,548人	259,000人
	276,909人	262,345人	253,763人		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	C	前川公民館・神根東公民館・新郷南公民館・青少年会館が設備補修・耐震補強・耐震改修・建替工事等により休館となった影響から、年間講座参加者数が前年度と比較して8,582人の減少、3.27%の減となったこと、また、年間講座参加者数が目標値を下回っていることから評価結果はCとする。
	前回評価 A	南平公民館・芝南公民館・新郷南公民館・青少年会館が耐震改修・建替工事により休館となった影響から、前年度と比較して14,564人の減少、5.26%の減となったが、年間講座参加者数が目標値を上回っていることから評価結果はAとする。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	年間講座参加者数の実績値は、平成29年度より減少し、目標値をわずかに下回っているが、施設改修により講座や文化祭が開催できなかった公民館があったことを考慮し、評価はBとする。 あらゆる世代に講座に参加してもらうために、従来の利用者に向け多種多様な講座を提供していくとともに、土日開催の講座や単発開催の講座を増やし、新規の利用者も参加しやすいような工夫をすることで、参加者数の増加に繋げていってほしい。
	前回評価 A	実績値は、施設改修により休館となった施設が複数あったことから、平成28年度に比べ減少しているが、目標値を上回っているため、評価はAとする。 今後も引き続き、多種多様な講座を実施するとともに、若年層向けの講座を実施するなど、幅広い年齢層に参加してもらうような講座の企画・実施を期待したい。

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(3) 図書館年間利用者数(入館者数)

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
図書館資料貸出数で捉えると閲覧等の場合数値に含まれないため、利用者数(入館者数)とした。	利用者が減少傾向にあるため、過去5年間年平均0.51%減を設定とした。	1,895,301人	1,838,039人	72

平成30年度の実施状況

①実施時期 H30.4.1～H31.3.31

②実施内容

移動図書館車の定期巡回、おはなし会等の定例事業の実施とともに、29年度から実施している本の福袋「かわぐちラッキーバッグ」の貸出を、対象年齢や実施図書館を拡充し、全館で春と秋に実施した。

また、新たな取り組みの例として市の事業である「川口市平和展(所管:総務課)」の特別企画として図書館司書による「平和展ブックトーク」を実施した。

③実施結果

入館者数1,774,491人、移動図書館利用者数4,064人、おはなし会参加人数6,785人、本の福袋「かわぐちラッキーバッグ」貸出数709袋の利用、参加があった。また、新市立高校には215冊の貸し出しを行った。

入館者数については、これまで実施してきた利用促進の取り組みの成果が現れ、目標値は下回ったものの実績値は増加している。

	H28	H29	H30
おはなし会参加人数	6,805人	6,751人	6,785人
移動図書館利用者数	4,133人	3,990人	4,064人

令和元年度以降の取り組み

①実施時期 H31.4.1～R2.3.31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

既存の利用者に対するイベント等の取り組みに留まることなく、新たな利用者に向けて図書館の魅力を発信する必要がある。このことから新たな利用者の取り込みとして、学校連携事業の更なる拡充を図ることとする。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	1,876,018人	1,866,450人	1,856,931人	1,847,461人	1,838,039人
	1,800,432人	1,769,106人	1,774,491人		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	利用者と本の新たな出会いのきっかけを作ることを目的とした「本の福袋」（愛称：かわぐちラッキーバッグ）の貸出等に加え、平和展ブックトークなど、他の部局との連携事業を行い、今後も拡充していくこととしていることから、評価結果はBとした。
	前回評価	本市に限らず、公共図書館の利用状況は全国的に減少傾向となっていることに加え、図書館電算システム更新による全館一斉休館も実施されたことなどにより入館者数は減少している状況である。 しかしながら、本市においては、入館者数の減少に歯止めをかけるため、読書週間の期間にあわせ、利用者と本の新たな出会いのきっかけを作ることを目的とした「本の福袋」（愛称：かわぐちラッキーバッグ）の貸出や、図書館に来るたびに新しい本に出会えることをねらいとした「テーマ展示」の実施、利用者が「どくしょノート」に記録する読書の履歴を図書館電算システムからシールに印字できるようにするなど、新たな企画を実施してきた。今後も更なる魅力ある図書館づくりを目指していく考えであることから、評価結果はBとした。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	年間利用者数の実績値は、平成29年度に比べ増加しているが、目標値には達していないことから、評価はBとする。 「かわぐちラッキーバッグ」やブックトーク、おはなし会など、図書館独自の取り組みを行っており、図書館の利用促進のため努力している点は高く評価できる。また、インターネットを利用したサービスも充実させているので、今後は、多様な取り組みを、多くの市民に知ってもらえるような周知方法について検討してほしい。
	前回評価	年間利用者数の実績値は平成28年度に比べ減少し、目標値を下回っているが、全国的な傾向であることも考慮し、評価はBとする。 なお、「かわぐちラッキーバッグ」や市立高等学校との連携体制など、新しい取り組みを多く行っており、魅力ある図書館づくりを推進している点は高く評価できる。今後は、団塊の世代を図書館に呼び込む工夫など、利用者数の増加を目的とした施策についても期待したい。

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(4) 科学館の年間利用者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
科学館における科学展示事業・天文台事業・プラネタリウム事業の参加者数、科学出張教室・太陽観測出張授業・夜間出張観望会などの館外事業参加者数。科学への市民の興味・関心を引く事業の充実や、学校との連携・協力による理科教育への支援の成果を示すものとして、この指標を選定した。	科学館の過去5年間の年平均増減率6.9%増(平成30年度以降は1.7%増)の数値を踏まえ、この目標値を設定した。	170,019人	253,725人 (189,522人)	74

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30.4.1～H31.3.31
②実施内容	<p>○科学展示事業…実験ショーや身近な素材を使った簡単な科学ものづくり教室および講義と観察・実験・工作を組み合わせた「夏休み科学教室」や「サイエンスクラブ」等を実施。館外事業では学校の授業の一環で行う科学出張教室等を実施。インストラクター委託業務による展示装置の解説やテーマのあるものづくり・観察実験補助。</p> <p>○天文台事業…屋上の主天文台と副天文台でその日によく見える惑星や月、星雲等を観察する夜間観測会を実施。また副天文台での太陽観測と3つの天文台を案内する天文台ガイドツアーの実施。館外事業では学校等の依頼により太陽観測出張授業や夜間出張観望会等を実施。</p> <p>○プラネタリウム事業…一般投影(小学生～一般対象)、キッズアワー(幼児・小学校低学年とその保護者)、学習投影(市内小学校4年生、希望する中学校、幼稚園・保育所)、宇宙の教室(小学校高学年から大人まで学べる天文講座)等を実施。</p> <p>○特別企画事業…職員による企画立案による手作りの特別展のほか、関連団体からの展示物の借用及びテーマに精通した業者への委託による特別展を実施。</p>
③実施結果	<p>○科学展示事業…科学展示施設入場者79,475人・館内事業参加者数30,309人・館外事業参加者数9,791人</p> <p>○天文台事業…天文台公開参加者数1,989人・太陽観測出張授業1,608人・夜間出張観望会280人</p> <p>○プラネタリウム事業…プラネタリウム観覧者数36,262人</p> <p>○特別企画事業…28,322人</p>

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31.4.1～R2.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>実験ショーや科学教室、地域学校連携となる館外事業の実施については、内容の充実や実施方法の改善など、他館の事業を参考にしながら利用者の満足度を高める工夫を今後も続けていく必要がある。また、天文事業においても、時節の話題や天文現象などを考慮し事業を進めていく中で、一般的な解説だけでなく専門性の高い内容を求められることも多い。市民ニーズに対応するためには、情報収集や他館等の事業について研究が必要である。引き続きアンケートなどを参考に企画・立案を行い、より専門性を高めるとともに満足度の高い学習機会となるよう努める。また、開館から15年以上が経過し、老朽化が進んでいる展示装置の更新等、改修事業として要望を出し、予算の枠内で更新を図るよう努める。さらに、ホームページをスマートフォン対応にするなど、利便性の充実を図ることで利用者の満足度を高め、幅広い年齢層の方々の興味関心が高まるよう努める。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度					
※ 目標値の再設定について 当初目標設定の基準とした期間は通常の増加率を大きく超え実績を伸ばした期間であり、現在に至っては実績値と目標値が大きく乖離し始めたため、目標値を再設定するもの。 新たな目標値： 平成29年度の科学展示事業など各事業ごとの実績値に1.7%を増加し、その合計したものを平成30年度の目標値とする。以後同様に加算し目標値とする。 ()内は新たな目標値	194,291人	207,697人	222,028人 (183,238人)	237,348人 (186,353人)	253,725人 (189,522人)
	167,691人	180,174人	188,036人		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>年間利用者数の実績値は目標値の102.6%と上回り、前年度実績比では7,862人(4.4%)の増であったことから評価結果はAとした。開館15周年を迎え、開館記念日の5月3日にはイベント数を増やし、多くの来館者を迎えることができた。また、科学現象の原理原則を学ぶ展示装置や、科学の基礎を学習する科学実験ショーや科学ものづくり教室、天体観測会、若田宇宙飛行士や東京大学准教授を招いての講演会等、科学館ならではの専門性の高い事業を展開し大人から子どもまで楽しみながら学べ、幅広い年齢層に対し生涯教育的効果を担った。</p> <p>特に天文台では、火星と地球が15年ぶりに大接近するなど話題となった天文現象が多くあり、大勢の方が天文台の望遠鏡を利用し大きく明るい火星の表面の様子を実際に観測。また、部分日食の観測会では、小型望遠鏡や遮光板等を使用し、欠けていく太陽を実際に観測し300人を超える方が参加した。自然現象をリアルタイムで観ることは、効果的な学習機会となり、参加者の満足度は特に高かった。</p>
	前回評価	<p>年間利用者数の実績値は目標値の86.7%と下回ったことから、評価結果はBとした。しかしながら、利用者数の全体では、前年度実績から12,483人(7.4%)の増となり、平成30年1月には開館から150万人を超える来館者を迎えることができた。</p> <p>科学展示事業では、前年度から実施している展示装置の改修や科学ものづくり教室として電気工作の入門講座を実施するなどの新事業を展開した。平成29年度は皆既月食があったが、深夜のため天文台の望遠鏡からインターネットを活用したライブ配信を行った。プラネタリウムや特別展などにおいては、前年度を上回る参加者となり、多くの市民の方に科学について興味・関心を高めることができ、楽しみながら学べる科学館を市民の方にアピールすることができた。</p> <p>なお、当初目標設定の基準とした期間は通常の増加率を大きく超え実績を伸ばした期間であり、現在に至っては実績値と目標値が大きく乖離し始めたことから、目標値の再設定が必要である。</p>

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>年間利用者数の実績値は、平成29年度より増加しており、目標値を上回っていることから、評価はAとする。</p> <p>科学展示事業や天文台事業など、児童生徒を始め多くの市民に、科学と触れ合う場を提供していることが、高く評価できる。</p> <p>今後も引き続き、市内小・中学校と連携した事業を推進するとともに、多様な事業を、多くの市民に知ってもらえるような周知方法について検討してほしい。</p>
	前回評価	<p>実績値は、平成28年度に比べ大幅に増加しているが、目標値には達していないことから、評価はBとする。</p> <p>今後は、来館者が何度も来館したくなるような仕組みづくりや、幅広い年齢層に向けての広報の方法を工夫するなど、より多くの市民に利用してもらえるように努めてほしい。</p> <p>また、指標の目標値については、現状と大きく乖離していることから、今後は、主管課の提案通り、再設定した目標値を基準に実績値の評価を行うことが適切と考える。</p>

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(5) スポーツ施設の年間利用者数				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
市民のスポーツ・レクリエーションに対するニーズや健康に対する意識も高まっており、スポーツ活性化を促進し、健康・体力づくりやスポーツ人口の拡大を示すものとして、この指標を選定した。	利用者数が増加傾向にあるため、過去5年間年平均1.91%増を設定とした。	2,494,205人	2,794,042人	76

平成30年度の実施状況	
①実施時期	H30.4.1～H31.3.31
②実施内容	<p>利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応え、スポーツ施設を利用者の自主的なスポーツ活動の場として提供した。また、大会やトップアスリートなどを招いたイベント等を開催し、競技利用者だけでなく観戦や応援に訪れた方にも施設を開放し、スポーツに触れる機会などを提供した。</p> <p>スポーツ施設の整備・充実を図るため、新郷スポーツセンターの耐震補強工事や北スポーツセンターの体育館天井及び照明等の改修並びに赤井少年サッカー場人工芝張替工事などを実施した。</p>
③実施結果	<p>現状値の過去5年間年平均1.91%増を設定しているが、施設改修等により施設利用できない期間があったため、目標値より実績値が下回った。</p> <p>※主な休止施設及び期間、利用者数減の主な原因（約26万1千人減(平成28年度実績値からの推定値)）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新郷スポーツセンター（耐震補強工事完了）平成29年6月～平成31年3月23日まで休止（約8万人減） ・西スポーツセンター（プール天井、設備等改修工事中）平成29年10月～令和元年7月16日まで休止（約14万7千人減） ・北スポーツセンター（体育館天井及び照明設備：平成30年8月～平成30年12月まで休止、ボイラ改修工事：平成31年2月～平成31年4月7日まで休止（約2万4千人減） ・赤井少年サッカー場（人工芝張替工事）平成30年7月～平成30年10月まで休止（約1万人減）

令和元年度以降の取り組み	
①実施時期	H31.4.1～R2.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応え、今後もスポーツ活動の場として提供していく。また、施設の耐震工事や設備等を改修し、バリアフリー化やトイレの洋式化を推進するなど、利用者が安全・安心に利用できるように、更なるサービスの向上に努める。</p> <p>また、施設の大規模改修等による利用休止期間についての情報提供を適時行うとともに、大会等の代替会場の確保について施設間の連携調整を図り、スポーツの機会提供とともに、利用者数の減少の抑制に引き続き努める。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	2,590,394人	2,639,870人	2,690,292人	2,741,676人	2,794,042人
	2,460,904人	2,326,647人	2,201,351人		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>継続事業である新郷スポーツセンターの耐震補強工事をはじめ、西スポーツセンタープール天井等改修工事など施設の設備改修に伴い休館期間が生じたことにより、目標値には達しなかったことから評価結果はBとした。しかしながら、平成30年度においては、新郷スポーツセンターの耐震補強工事や北スポーツセンター体育館天井及び照明等の改修並びに赤井少年サッカー場人工芝張替工事など、スポーツ施設の整備・充実を図り、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用者にスポーツ活動の場を提供したことにより、世代交流や体力づくりへの意欲向上につなげることができ、本市のスポーツ推進に貢献することができた。</p>
	前回評価 B	<p>新郷スポーツセンターの耐震補強工事をはじめ、各施設の設備改修により休館期間が生じたこと、また、降雪によりグラウンド施設を約1ヶ月間利用休止したことにより、目標値には達しなかったことから評価結果はBとした。しかしながら、平成29年度においては、青木町公園総合運動場陸上競技場走路等の改修や体育武道センター他2施設の柔・剣道場空調設備設置並びに芝スポーツセンター野球場芝生整備など、スポーツ施設の整備・充実を図り、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用者にスポーツ活動の場を提供したことにより、世代交流や体力づくりへの意欲向上につなげることができ、本市のスポーツ推進に貢献することができた。</p>

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>年間利用者数の実績値は、平成29年度より減少し目標値に達していないが、施設改修により休止となっている施設があったことを考慮し、評価はBとする。 年々利用者数が減少しており、現状の実績値と目標値に乖離があるので、施設改修後に目標値に近づいているかを確認しながら、利用者数増加に向けた今後の取り組みについて検討した方がよい。</p>
	前回評価 B	<p>利用者数の実績値は目標値に達していないが、施設改修により休止となっているスポーツ施設があったことから利用者数が減少している点を考慮し、評価はBとする。 施設改修の影響を受け、現状の実績値と目標値に乖離があるが、施設のバリアフリー化やトイレの洋式化など、市民が利用しやすい環境づくりを進めていくことで利用者数の増加も見込まれるので、今後も引き続き、計画的な施設改修に努めてほしい。</p>

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(6) 人材の登録者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
文化芸術活動を担う人材の登録者数。 文化芸術活動を支援していくことで、文化芸術への関心や意欲を高め、次世代の人材の育成を示すものとして、この指標を選定した。	文化団体のほか、市内を拠点として文化芸術活動を行っている人材の登録者数を毎年度30人程度増加させることを目標とした。	864人	1,040人	80

平成30年度の実施状況

①実施時期 H30. 4. 1～H31. 3. 31

②実施内容

人材の登録者数とは、本市が実施する事業に係る会議体への参加者（審議会等）、文化団体、イベント出演者（ゲストを含む）、アトリアにおける展覧会出展者、アトリア貸し館事業利用者、ワークショップ等の講師、文化振興助成対象者、旧芝園中学校を本拠とするアブリュスタジオ利用アーティスト等を登録者として、団体・個人の区別なくその総数を「人材の登録者数」としている。よって、登録制度があるわけではなく、毎年のその総数をカウントして報告している状況である。

本指標の趣旨とすれば、文化事業の実施主体となりえる人材・団体の創出、育成を目指すことであるため、各事業に携わる団体・個人の総数の向上を目指すことは必要と考えるが、実際に繰り返し事業実施者となる団体・個人に著しい変化はない状況である。

文化推進室としては、これら個人・団体数の向上を目指し、「文化振興助成制度」（平成18年度創設）に申請をいただいた事業を選考し、採択した毎年約10件について、上限20万円の補助を行っているほか、市内各所で実施されているさまざまなイベントに伺い、実施者の方との繋がりを構築し、未だ「人材の登録者数」としてカウントされていない方々のご意見ご要望のヒアリングに努めている。また、文化祭、文化芸術鑑賞事業、アートギャラリーボランティア登録制度、アーティスト発掘事業などを実施することで、市内文化事業を担う人材の創出、育成に努めている。

③実施結果

実施結果の主な内容は下記のとおりとなった。

- ・「文化祭」：各団体の成果発表などの場として開催。（文化団体連合会、市民音楽協会の協力）
- ・「文化芸術鑑賞事業」：「子ども能楽教室」を開催。（川口ふれあい能楽会の協力）
- ・「アートギャラリーボランティア登録制度」：ワークショップや実技講座講師の補助など（登録者数17人）
- ・「アーティスト発掘事業」：市民コンサートでの演奏、交通安全市民総ぐるみ大会にアーティスト派遣
- ・「文化振興助成制度」：11事業を採択総額1,776,294円助成

令和元年度以降の取り組み

①実施時期 H31. 4. 1～R2. 3. 31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

引き続き、これらの活動を行うとともに、将来的にはイベント実施者を集めたフォーラムや交流会などを開催することで、各団体・個人の活動をサポートし、本来の意味での登録制度の構築を検討していく。

また、本年度より実施しているヒアリングにより、「行政との繋がりが欲しかった」、「他団体を紹介して欲しい」、「会場の確保が難しい」等のご意見をいただいている。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	894人	894人	940人	990人	1,040人
	791人	781人	830人		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>実績値は830人で前年度より49人増加しているが、目標値940人の88%であることから、評価結果はBとする。</p> <p>平成30年度に美術館建設検討に係る審議会を設置したことや、アーティスト発掘事業の登録者増など、本市事業に関連した増加がみとめられるものの、関係団体については、高齢化や新規加入が進まないこと等の要因により、横ばいまたは減少傾向にある。</p>
	前回評価 B	<p>登録者数の実績値は781人で、目標値894人の87%となり、前年度に比べ10人の減少となっており、目標値に達していないことから、評価結果はBとする。</p> <p>減少の要因としては、高齢化による個人会員の減少により活動を継続できなかったことを理由とした団体の解散による団体数の減少がある。また、アートギャラリーボランティア登録制度における登録者のうち、実質的な活動がないものなどに更新手続きを促したところ、登録を辞退するケースがあったことが減少要因である。さらには、減員を補うような若手の加入が進まない点などもある。</p>

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>人材の登録者数の実績値は、目標値には達していないが、平成29年度より増加しており、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。</p> <p>今後も、文化団体等へのヒアリング等からニーズを把握し、市民の文化芸術活動の推進に貢献できるような人材の発掘や育成に努めてほしい。</p>
	前回評価 B	<p>実績値は、平成28年度より減少し、目標値を下回っているが、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。</p> <p>人材の登録者数については、文化団体の解散等により減少が続いているが、今後は目標の達成に向け登録者数を増加するために、登録制度の整備等が必要である。</p>

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(7) アートギャラリーの年間利用率

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>アートギャラリースタジオ、展示室A・Bの年間利用率。 アートギャラリーは文化芸術の振興拠点となる施設であり、その成果を示すものとして、この指標を選定した。</p>	<p>アートギャラリースタジオ、展示室A・Bの利用率を現状値より、増加させることを目標とした。</p>	97%	100%	82

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	<p>実施事業は、「自主企画事業」「共催事業」「実技講座」「鑑賞講座」及び「貸し館事業」の5種から成り、各世代の市民がそれぞれ楽しめるとともに、アートに興味を抱かせる内容として実施している。</p> <p>自主企画事業：アーティストインスクール、企画展4回、アートな年賀状展（計6事業） 共催事業：美術家協会選抜展、小中高硬筆展、水道ポスターコンクール、特別支援学級合同作品展、中学生のアートクラブ展、小中高書きぞめ展覧会、図工美術学び展（計7事業） 実技講座：版表現入門、アートな年賀状関連（計2事業） 鑑賞事業：焼物の世界（計1事業） 貸し館：128日（展示室A:54日、展示室B：48日、スタジオ：26日）</p>
③実施結果	<p>全室共通で、開館日数は、365日から休館日94日を差し引いた271日。 ①展示室Aは、未利用日が4日あるので利用日数は267日で年間利用率98.5% ②展示室Bは、未利用日が10日あるので利用日数は261日で年間利用率96.3% ③スタジオは、未利用日が15日あるので利用日数は256日で年間利用率94.5% 平均年間利用率は96.4%となった。</p>

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R2. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>未利用日の解消を図るため、利用者アンケート等を実施するとともに、利用環境の改善に努め、無料媒体を中心に館のPRを積極的に行うことで、利用率の向上に努める。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	97.0%	97.5%	98.0%	99.0%	100%
	96.7%	94.3%	96.4%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	目標値98.0%に対し、実績値は3室平均で96.4%であり目標値には到達していないが、前年度平均94.3%は上回り、また、個別には展示室Aの利用率は98.5%と高い利用率を示していることからB評価とする。
	前回評価	年間利用率の目標値には達していないが、個別には、展示室Aが97.1%、展示室Bが93.2%、アートギャラリースタジオが92.5%の平均94.3%の利用率となっており、概ね達成しているものと考え、評価結果はBとする。なお、昨年度からの利用率が減少している理由は、利用形態が異なったことや、春の展示会を単年度開催に変更したこと等により、未利用の期間があったことによるものと考えている。
B		

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	年間利用率の実績値は、目標値には達していないが、平成29年度より上昇しており、高い利用実績があったことから、評価はBとする。 目標値が非常に高いため、目標を達成することは難しいと思うが、施設の利用可能期間について広く市民に周知し、再度利用希望を募るなど、今後も引き続き、利用率をあげるよう工夫してほしい。
	前回評価	年間利用率の実績値は、平成28年度より下がり、目標値を下回っているが、目標は概ね達成していることから、評価はBとする。 利用率100%という目標値は非常に高く、目標を達成するのは難しいと思うが、施設が十分に活用されるよう、広報の方法などを工夫し、市民に広く周知できるよう努めてほしい。
B		

基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

指標(1) 文化財センター及び分館への年間来館者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
文化財の調査・保存や伝統文化などの文化財情報を市民へ発信する場である常設展示・特別展示等において、情報を共有していただいた市民の人数として、この指標を設定した。	平成24年度から26年度3ヵ年の平均来館者数の20%増加を目標とした。	10,413人	14,000人 (20,494人)	88

平成30年度の実施状況

①実施時期 H30. 4. 1～H31. 3. 31

②実施内容

分館（郷土資料館）の企画展は、川口宿鳩ヶ谷宿日光御成道まつり開催に併せ、本館（文化財センター）、分館（歴史自然資料館）、鳩ヶ谷庁舎をサテライト会場として連携をはかり、分館（旧田中家住宅）では、教育委員会主催・共催の内容を充実させた文化行事を実施し、来館者数の増加をはかった。

③実施結果

本館分館が連携した企画展を開催し、また旧田中家住宅を活用し内容の充実をはかった文化行事を実施し、さらに12月には国重要文化財に指定されたこともあり来館者が増加し、目標値である13,300人に対して実績値は19,720人となり、目標を大きく上回る結果となった。

なお、平成30年4月に開館した歴史自然資料館は、赤山歴史自然公園（イイナパーク川口）内にあることから、多くの来館者があり、72,431人であった。

令和元年度以降の取り組み

①実施時期 H31. 4. 1～R3. 3. 31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

今後も、企画展の内容と文化行事の更なる充実、館同士の連携した特別展等を実施することにより、更なる来館者人数の増加に努めていく。

また、実績値が目標値を上回っていることから、改めて目標値を再設定する。

なお、平成30年度に開館した歴史自然資料館については、講座やワークショップなどを行い来館者人数の増加に努めていくが、平成31年度の状況を見て目標値を検討していきたい。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	12,500人	12,900人	13,300人	13,700人 (20,107人)	14,000人 (20,494人)
※目標値再設定について、令和2年度の目標値を達成したことにより設定するもの。 新たな目標値： 平成30年度の実績値に平成28から30年度の実績値の増加分の10%を令和元年度・2年度にそれぞれ加えたものを目標値とする。 ()内は新たな目標値	15,842人	16,049人	19,720人 ※歴史自然資料館 72,431人		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	平成30年度における文化財センター・旧田中家住宅・郷土資料館の来館者数については、川口宿鳩ヶ谷宿日光御成道まつり開催に併せ、郷土資料館を中心として各サテライト会場と連携した企画展の開催し、旧田中家住宅については、引き続き主催・共催の文化行事の更なる充実をはかり、また12月には国重要文化財に指定されたこともあり来館者が増加し、目標値に対し実績値は6,420人上回り目標を達成したことから、評価結果はAとした。 なお、平成30年4月に開館した歴史自然資料館は、赤山歴史自然公園（イイナパーク川口）内にあることから、多くの来館者があり、72,431人であった。
	前回評価 A	平成29年度の来館者数は、施設間連携の特別展を行い、分館（旧田中家住宅）では昨年の「国登録有形文化財」登録10周年記念事業に引き続き様々な文化行事を行ったことにより、目標値に対し実績値3,000人以上を上回り、目標を達成したことから、評価結果はAとする。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	年間来館者数の実績値は、本館分館が連携した企画展の充実や、旧田中家住宅が国重要文化財に指定されたことを受け、目標値を大幅に上回っていることから、評価はAとする。 平成30年4月に開館した歴史自然資料館も多くの市民が来館しており、各施設と連携をはかった文化行事や企画展も来館者数の増加に貢献しており、高く評価できる。 今後は、児童生徒が学びの場として利用しやすいように、学校を通した周知方法を工夫するとともに、文化財センター等の無料開放の拡充を推進してほしい。
	前回評価 A	年間来館者数の実績値は、目標値を大幅に上回っており、また、昨年度の実績値からも増加している。企画展の内容が市民に評価され、来館者数の増加につながっていると考え、評価はAとする。 歴史自然資料館が開館し、今後はさらに市民の注目を受ける分野にもなるので、多くの市民に来館してもらえるように、魅力ある企画展を実施してほしい。 また、文化財センター及び郷土資料館は、児童・生徒への学びの場を提供するという観点から無償化を検討してほしい。 なお、実績値が目標値を大きく上回っており、施設数の増加から、今後もさらに来館者数の増加が見込まれることから、目標値の再設定が必要と考える。

基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

指標(2) 古文書・写真等資料の収蔵点数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
<p>解説・データベース化し活用されていく前提となる、古文書・写真等資料の収蔵（寄贈・寄託）されている数として、この指標を設定した。</p>	<p>今後の古文書等資料収集数はそう多く見込むことができないことから、平成27年9月現在の収蔵点数の116点増加を目標値とした。</p>	88,906点	89,000点 (89,257点)	92

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	<p>古文書所有者からの調査依頼に応じて、寄贈並びに寄託の手続きを経て収蔵した。平成30年度は芝地区及び安行地区の旧家より近世・近現代資料の追加寄託、また、市外の方から昭和初期の川口市関係資料の寄贈を受けた。さらに、新郷地区の旧家から寄託されていた近世資料が寄贈された。</p>
③実施結果	<p>芝地区の旧家から1,237点、安行地区の旧家から183点を新たに追加し寄託保管した。また、市外の方より11点の川口市関係資料の寄贈を受けた。その結果、1,431点が追加収蔵された。さらに、新郷地区の旧家から寄託されていた近世資料6点が寄贈に変更した。</p>

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R3. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>平成30年度は、旧家からの所蔵資料の追加寄託の資料数が多いことから目標値を大きく上回ることとなった。今後、目標値の再設定が必要であるが、市内の旧家並びに未調査資料は減少傾向にあることを考慮する必要がある。</p> <p>なお、今年度において、改めて目標数値を設定し、古文書資料の調査・収集・保管に努めると共に、展示会や講座等での活用を展開していく。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度					
※ 目標値の再設定について 平成32年度の目標値を 平成28年度で達成した ことから再設定するもの。 新たな目標値： 平成28、29年度の増加分 の平均値の2分の1の値 (55点)を平成28年度の 実績値に加算し平成29年 度の目標値とする。以後 同様に加算し目標値と する。 ()内は新たな目標値	88,926点	88,946点 (89,092点)	88,966点 (89,147点)	88,986点 (89,202点)	89,000点 (89,257点)
	89,037点	89,128点	90,559点		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	平成30年度は、1,431点の資料を新たに収集し、目標値を大幅に超えた。内容的には、芝村や安行村の旧家の家政に関わる近世後期から近現代にわたる資料、さらに昭和初期の川口市に関わる資料を収集することができたため、評価結果はAとする。
	前回評価 A	平成29年度は、91点の資料を新たに収集し、目標値を達成することができた。内容的にも、戦前の学校教育に関わる資料や新井宿村の旧家の家政に関わる資料、さらには明治から昭和初期に安行地区を中心に営まれた俳諧に関する資料を収集することができたため、評価結果はAとする。

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	実績値が目標値を上回っており、古文書等資料の収集が着実に進められていることから、評価はAとする。 また、収集した古文書等資料についても、展示会や古文書解読講座など、市民が触れ合うことのできる場を提供しており、評価できる。 今後はさらに、児童生徒に向けて、学校教育の場でも活用していただけるように、学校と連携して取り組んでほしい。
	前回評価 A	実績値が目標値を上回っていることから、評価はAとする。 今後も引き続き、古文書等資料の収集に努めるとともに、個人より収集した資料を有効に利活用できるように、使用許諾の方法等についても検討していくとよい。

基本目標Ⅴ 教育行政経営の基盤強化

指標(1) 新市立高等学校建設における工事日程の進捗率

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (R2)	教育振興 基本計画 の頁
平成30年度の開校、そして平成33年度の工事完了を目標としているため、この指標を設定した。	平成33年度8月の工事完了に向け、工程どおりに工事を進めていくことが最重要であるため。	8.5%	93.0%	98

平成30年度の実施状況

①実施時期	H30. 4. 1～H31. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナ棟建設工事 ・既存校舎棟（川口総合高等学校）解体工事 ・工事監理業務
③実施結果	<p>平成30年1月より開始された既存校舎棟の解体工事は、平成31年1月に予定どおり、工事が終了した。</p> <p>また、平成31年1月より、アリーナ棟建設工事を開始し、予定どおりの進捗となっている。</p>

令和元年度以降の取り組み

①実施時期	H31. 4. 1～R2. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナ棟の建設工事では、目標値の達成に向け、計画通り工事を進めていけるよう監理に取り組む。 ・第2校地の解体工事では、地域住民の意見を踏まえた、工事計画を検討している。

集計年度	H28	H29	H30	H31 (R1)	H32 (R2)
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	25.4%	42.3%	59.2%	76.1%	93.0%
	25.4%	42.3%	59.2%		

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	既存校舎棟の解体工事及びアリーナ棟の建設工事など、令和3年の工事完成に向け、予定どおりの進捗となっているため。
	前回評価	3カ年の継続事業である校舎棟建設工事は、平成29年12月に竣工し、平成30年4月に新市立高等学校が開校した。平成33年の工事完成に向け、予定どおりの進捗となっているため。
A		

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	建設工事の進捗率の実績値は、目標値に達しており、工事は計画通りに進んでいることから、評価はAとする。 川口市立高等学校の校舎は、斬新でデザイン性の高い校舎となっているが、実際に使用する中で、使い勝手の面で問題が出てくることもあると思うので、校舎建設時のデザインを損なわないよう留意しながら、誰もが利用しやすい校舎になるよう努めてほしい。
	前回評価	川口市立高等学校は、平成30年4月に開校を迎え、建設工事の進捗率の実績値は目標値に達していることから、評価はAとする。 今後は、第2校地の整備などの課題もあると思うが、平成33年の工事完了に向け、計画通り工事を進めていけるように努めてほしい。
A		